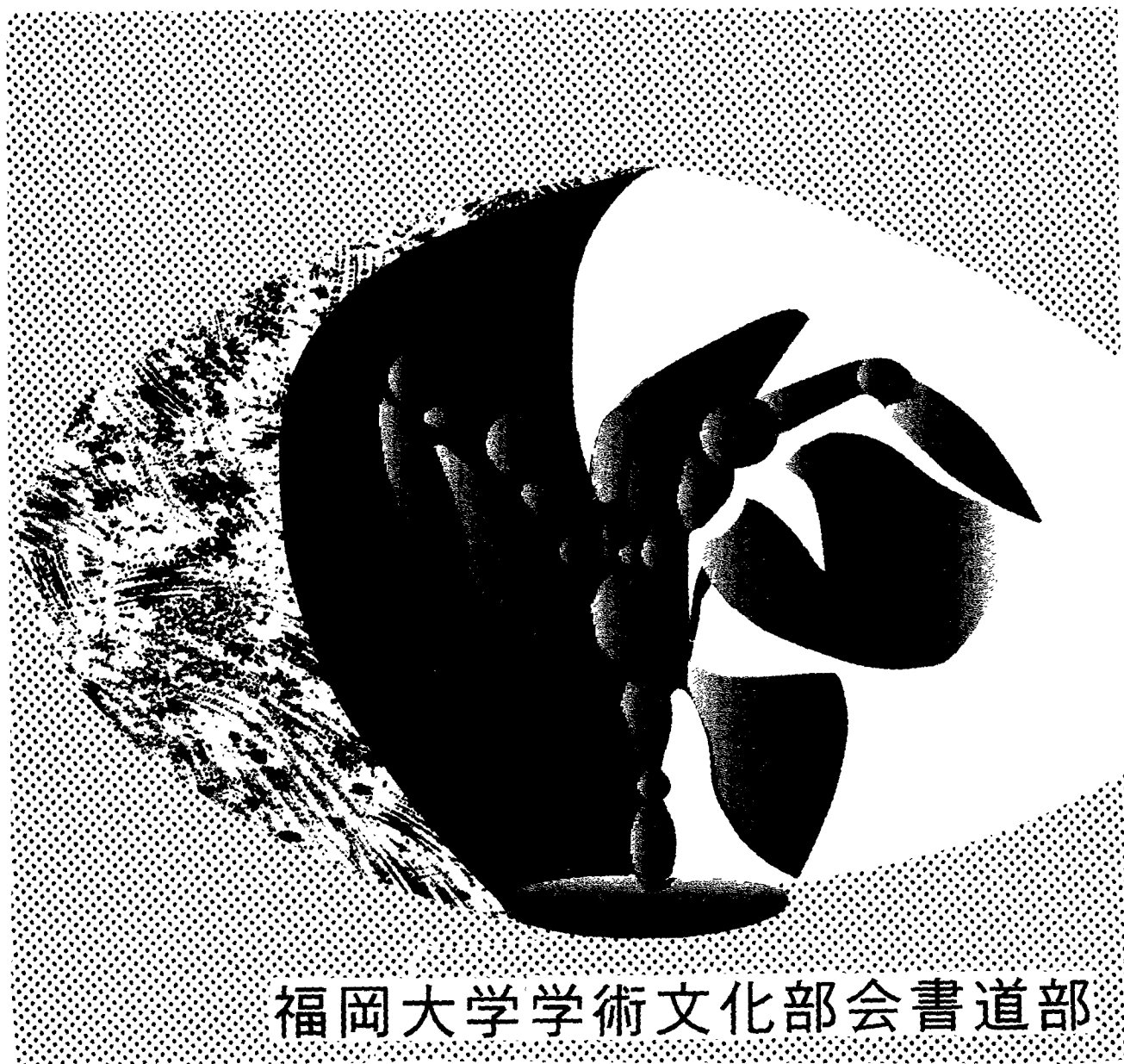


第35号

荒 鷺



福岡大学学術文化部会書道部

訪 問 者

とんとん

ある日

旅人のようにそれは扉を叩く

時間が来たことを

また

時間が来なかったことを

また

その時間がとうに過ぎ去ってしまったことをぼくに告げにくる

神話

あるいは詩

語り終えることのない物語は

そうしてふいに始まってゆく

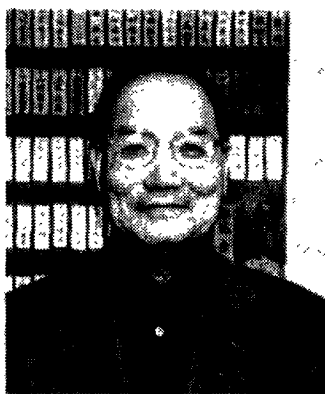
とんとん

あなたは誰ですか

【第二十四代 基本方針】

我々書道部は、これまで二十三年間先輩方が築き上げてこられた伝統を見つめなおし、これからの部の存在目的というものを考え、人間形成の場として大いに活用していく。また、その中で目的意識のある練習・行事・その他一般諸活動を行なう事を通して、部員相互で切磋琢磨し合うことで互いの書技・人間性を高め合い、親睦・団結を深めていき、活気ある部としていく。更に対外的アピールをしていく上で積極的に行動し、外部からの刺激を受け、更に活気溢れる部というものを確立していく。

C U T S



福岡大学書道部講師
赤 木 石 掃



福岡大学書道部部长
小 西 高 弘



福岡大学書道部第34代幹事
山 本 浩 司



福岡大学書道部書心会会長
柴 田 一 夫

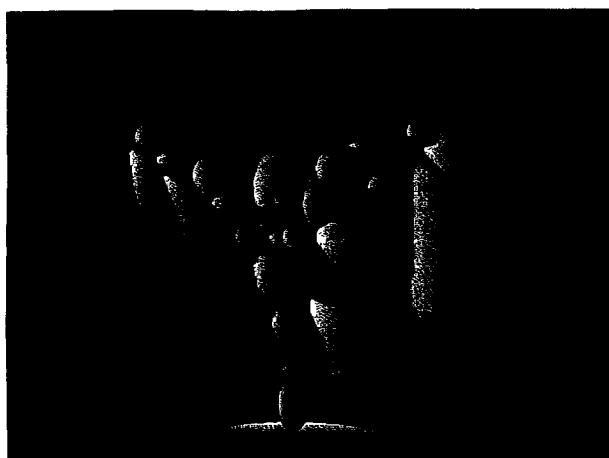
【第三十五号「葦薈」発刊にあたって】

この度、我が部の機関誌「葦薈」を発刊できたことは部員一同にとり誠に喜ばしいことであります。

書道部は、昭和三十五年の創部より今日にいたるまで、著しい発展を遂げています。急激な時代の変化とともに、学生本来の姿が問われる中で、我々は諸先輩方が築かれた良き伝統を継承し、又現代に即した運営を行なうことにより発展を図ることを使命と考えます。

最後に、発行に際し多大なるご尽力を頂きました関係貴位に厚く御礼申し上げます。

巻頭誌	3
第34代基本方針	4
C U T S	5
発刊にあたって	6
書道研究	8
特別寄稿・部員寄稿	13
年間行事	41
福岡大学学術文化部会書道部規約	49
福岡大学書道部書心会規約	51
部員名簿	53
平成6年度福岡大学書道部・書心会役員名簿	55
編集後記	56





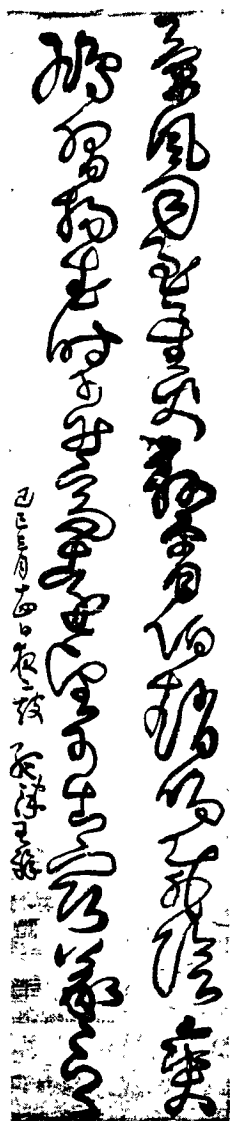
王鐸の書

王鐸の書は相当たくさん残っていて特に四十代初期から六十歳までは毎年の作例を見ることが出来る。図版をもとに簡単な解説を加えながら、現代の書の表現技法のひとつとして注目されている王鐸の書について述べていきたい。

王鐸の書は年齢によっていろいろと変化を見せるが、彼の書の様式がほぼ完成した四十以後の風を通じて伝える特色がいくつかある(挿①)。

第一に連綿を好んだ。特に草書の連綿は甚だしく、手放しでは読みにくいものがある。だが草書だけに止まらず、行書もまたよく続け書きをしている。見直してみると必ずしも続けていないことがあるが、それでも氣勢は奔流のように一字が次から次と爆発していく。この勢いは行の立て方にまで及んでいて、行が左右に大きくうねっていておおよそ一直線になっていないものはない。この盛んな熱情と奔放な氣勢は見る人を圧倒するものがある。六、七尺(一八二〜二二二センチ)の間に十數字続けたものがある。墨がきれるとつけ直して継ぎ目など気にせずにもまた平然と前から続けていく。それも二度、三度とつけ直して書いている感がある。

一字を取ってみると、形の整齊を破って右肩が上がり、また往々にして扁よりも旁が上がり、たての画など一字の中心に立つものは別のこと、右辺にあらわれる画などは脚を右に思いきり斜めに張ることがある。形態の均齊を破った一字は、主として力の均衡によって揺らいでいる。くねったりもつれたりした筆も盛んに投げ出されている。心のゆくままにしまるところはしまり、放つところは放つて自由なものだが、なぜかしら美しい均衡を保っているのである。更に一点一点を

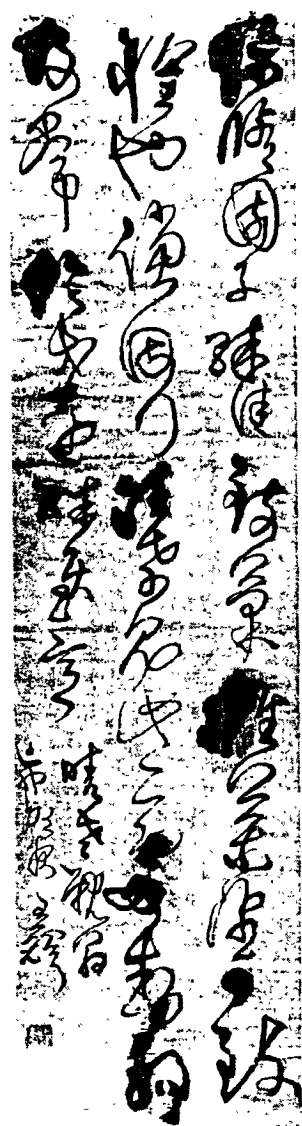


挿図① 臨右軍帖
(己巳38歳)

取り上げてみると筆の入りや止めの書字の基本原則はきれいに無視されていると言ってよい。

第二に、墨の含ませ方が概して多い。特に挿図②の臨右軍帖などは最も甚だしいものだ。この帖は字の割にかなり細い筆で書いたものかと見られるが随分ひどい。第一行の第一字「僕」は「保」とも見える。第九字「雜」はあるいは「推」、第三行の第一字の「故」は「友」のようにも見える。同行の第三字などはただでは全く解らないものになってしまっている。

その理由として、中国人の書を書くときの姿勢にあると考える。つまり、中国人は机の上で書き、そのたびに紙を上になぞらすためである。そうすると、紙が机の向こうに垂れると起筆の墨だまりも向こうに垂れる。統本(ぬめ)の裏へ染みとり、くっつきあって汚れることがある。しかしながら、こうしたことが奔逸の氣勢にいやが上に効果をそそっている。



挿図② 臨右軍帖
(己卯48歳)

よちよち

かわいくて、愛くるしい文字の代表のひとつに、中国東晋時代、四〇五年に立てられた「爨宝子碑」を挙げることができる。

幼い子のよちよち歩きのような、カルガモの親子の小さな列のような、その姿を眺めていると、頬がゆるみ、口元がほころぶ感を受ける。

引用した部分の文は「永く平素を惟えば感慟愧悚す。」故人の平素のことを思うと、嘆き悲しまれるという、悲痛な意味だというのに。

この書は、隸書から楷書へと正書体が移行していく過渡期の書である。刻り方のせいもあるが、字形の終筆は隸書固有の波型の波磔でもなく、楷書固有のうろこ形の終筆でもない過渡期の形状をしている。

横画のほとんどは水平を基本とした隸書型だが、「感」の文字に楷書固有の横画が右に上がる姿も顔を出している。隸書的な水平の統一感は失われ、求心・放射型の楷書文字の構成原理も形成されていない。隸書と呼ぶにはあまりにも衰弱しすぎ、楷書と呼ぶには、未完成に過ぎる。

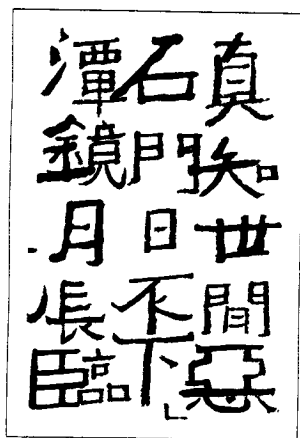
「かわいい」あるいは「じじむさい」という印象は、後世の楷書の麗姿との比較に生じている。「爨宝子碑」を揮毫し、石に刻んだ当時の人が未熟な形だと感じたわけではないだろう。

書に限らず、芸術の鑑賞は印象から出発するしかない。しかし、印象の奥深くまで分け入ることによって、前段階の隸書から、苦心に苦心を重ねて、新鮮な段階にせりあがった「爨宝子碑」の美的意味を読み取ることができる。この文字は画家・中村不折や俳人・河東碧梧桐をしばれさせた。



河東碧梧桐

(一八七三—一九三七)
「蘭亭序」



中村不折

(一八六六—一九四三)
「龍眠帖」

平成

昭和から平成へと元号が変わったときを思い出してもらいたい。官房長官が毛筆楷書体で「平成」と書かれた紙をカメラマンの注文に応じて長時間掲げ続けた。そして、次々とフラッシュが光った、新元号発表の瞬間を。

天皇が交替して元号が変わるというのも、国際的な共時性が進行する時代にはおかしな話に思われるが、書の面から元号に関心をもつてみると、興味深いことがわかる。

「明治」も「昭和」も共に二字目の最終字画ブロックが「口」で終わっていて、字形的にはとても座りがよかった。「大正」の場合は最終画が長い横画で終わっていて、さらに安定感があった。新元号にけちをつけようというわけではないが、「平成」の文字は字形の決め方の難しい、書きづらい字だと言えよう。

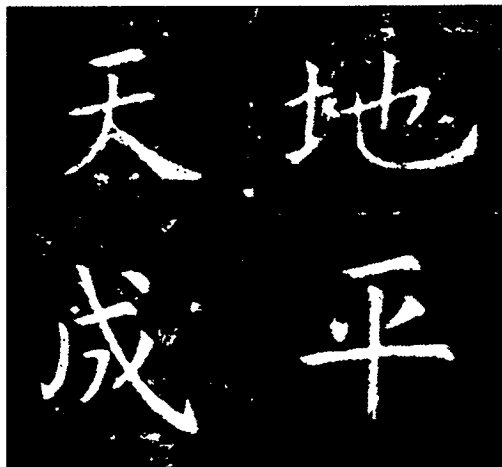
「平」の字は左右対称の字形構造をもっていて、バランスのとりやすい文字だが、上にくる場合は、最終画の縦画をどれくらい延ばしたらいいかに苦労する。また、小中学校で教えるほどには筆順に厳格なルールというものはないのだが、「成」の字は筆順の間違えやすい文字である。通例としては左側の縦のはらいを先に、次いで上部の横画を書く。

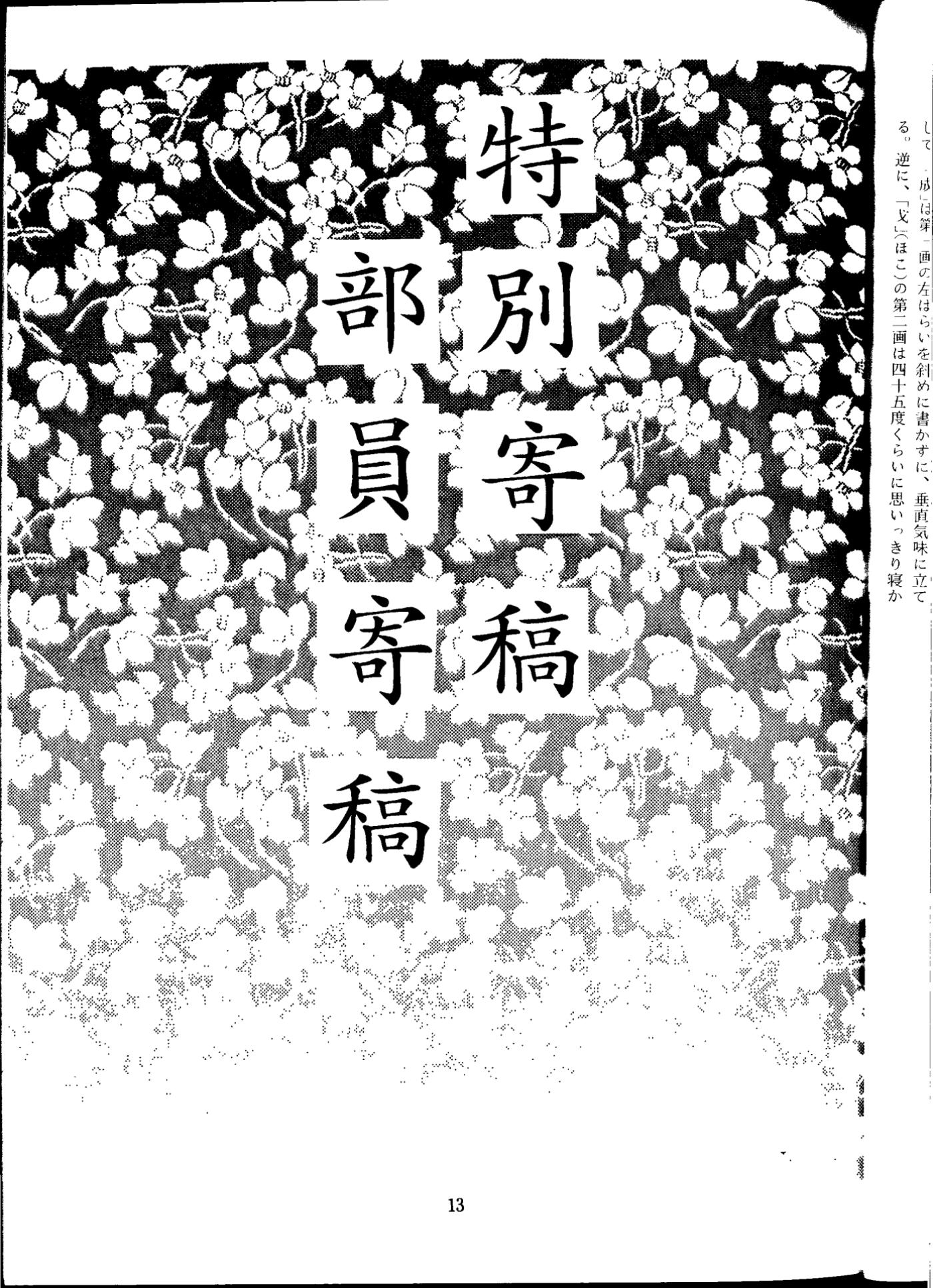
どのように字形を決めたらきれいにみえるであろうか。

「平」の字は第二、第三画の二つの点が、第一、第四画の二つの横画の真ん中あたりにくるように書いて、下がらないように書く。そして、「成」は第一画の左はらいを斜めに書かず、垂直気味に立てる。逆に、「戈」(はこ)の第二画は四十五度くらいに思いっきり寝か

せて、長く書く。

図版は唐の太宗皇帝の時代に、虞世南が揮毫した「孔子廟堂碑」中の「地平天成(地平らかに天成りて)……」の箇所である。





特別
部員
寄稿
寄稿

して「成」は第一画の左払いを斜めに書かず、垂直気味に立てる。逆に、「爻」はこの第二画は四十五度くらいに思いっきり寝か

孔健氏は「儒学というのは、修身、齊家、治国、平天下と、最終目標を天下に置くわけであるから、当然なことながら利に結びつくものである。したがって、孔子の弟子たちは意識の大小はあっても利にありつくことを意識していたことはまちがいないのである。

—(孔子の経営学・p. 113) しかし、人間は利について不思議なほど利己的、排他的、競争的になりやすい。そこで孔子は心ある人は「義に喩る」ことを大事にしなければならないという。

「中国人は商才に長けており、蓄財精神に富んでいるから、華僑のように、いつ、どこへ行っても、機会さえあれば金儲けに成功する。しかも、「義は利の本なり。」という精神が強力に作用してきたため、自立独往、逆境に屈しない根性が生まれ、ついにユダヤ商人やインド商人を向こうにまわして「華商王国」をつくりあげる素因になったのである。」(p. 114)

世界に冠たる華僑の金銭哲学は、「義を以て利を至らしめる。」からスタートして金を儲け、資力を手にした者は、それを社会へ還元することを考える。彼らは出身地、華僑の同胞、居住国の社会およびこの世界のために役立てることをもって使命と心得て、人類への援助、寄付をすることを人生終極の目的としている。

—(p. 121)

日本にも近代実業の父といわれた渋沢栄一氏は「不義にして富みかつ貴きは我において浮雲の如し。」を實踐することに努め、経済が道徳に従えば、金儲けと道徳の實踐とは矛盾しないと主張していた。

—(p. 114)

ところが、「世界の奇襲」といわれた戦後の日本経済は利をみて、義を思う観点を忘れ、経済大国・日本はついに金と利に誘惑され、「バブル経済」を現出し、アジアはむろん、欧米各国から批判的的となつてアメリカのような超大国ではなく、科学技術力と経済力、学問と産業によって内に豊かな国、外に貢献する国が作れるという実存のモデルである。いままでのような勤勉さと、異質の文化に対する好奇心とか、海外の変動に対する柔軟性をもち続けていけば、必ず立派なモデルになれる。」—(湧源国家論 p. 80) (p. 81) といひ、「もし、その気になってやれば、日本は超大国でない湧源国家の最高のモデルになれる。」—(p. 81) と、未来に期待をこめられている。

「有意義な学生生活を」

学術文化部会常任幹事会 幹事長 平野 周二

我々学生は、現代社会に於いて、何が求められ、また、何を身に付けて行かなければならないのであろうか。

そもそも学生自身は、四年間という短い時間を充実させ、有意義なものにしたいという考えを誰もが持っていることであらう。確かに学生時代は、これからの人生に影響を及ぼすものであることは間違いないことである。その為にも、しっかりと一人一人の確立された目的を持ち、自らが考え行動していく、時間を有効に使っていくことが必要となってくるのである。

今では我が福岡大学も、学生数が二万人を越え、全国の中でも有数のマンモス大学になりつつある。しかし、それが逆に、大衆的基盤の拡大、大規模化により、大教室でのマイクを使用した講義の増大による、学問に対する意識の希薄化、又学生相互が協力していく機会も減り、切磋琢磨した連携が不十分であるという問題があり、決してマンモス化がよい方向へ行っているとは言えない。

そこで、我が大学でも大いに奨励され、学生自身の意識の向上の一助となっているのが、課外活動である。我々学術文化部会は、学術文化という人々の知識や心を豊かにさせてくれる一つの特殊性を媒体として、様々な経験、切磋琢磨した関係による強い人間同志のつながりを築き、強い意志と目的をもって取り組んでいる。そして教育の一環として、自主性の涵養、社会性の陶冶、学生相互の啓発という役割を果たしており、高度な人格の育成に貢献しているものである。

書道部の部員の皆様も、コノようなことを頭に入れ、諸君が為している活動に、情熱と誇りを持って欲しい。そして、素晴らしい伝統を持つ書道部の更なる発展の為にあらゆる力を發揮して頂きたいものである。

最後に、今回で第三十五号を迎える「荒鷲」の発刊にあたり御尽力されました皆様に深く敬意を表し、私の言葉とさせて頂きます。

自由投稿

四年 工藤 大行

暑い、暑い。シェーだぜ。今授業中、毛穴を全開にして頑張ってる。でもこれを読むのは冬だから、ピンとこないだろうな。

大分の名所&方言VOL. 2 と思ったけど、ネタがないので気促にかきまうす。

第一話 一人の気持ちなんて

九回裏ツアアウト満塁、カウント2-3、一点差。ピッチャー投げた。小心者だが、迷わず強振。「キーン。」打球はピッチャーフライ。ベンチから溜息。が、それを落球。スタートをきって2-3塁走者が戻り、逆転サヨナラ。一斉に歓声が湧き起こる。私はボールが手から地面に落ちただけそれだけ、そしてその一瞬で、皆にとって別の二人になった。ダメ男とヒーローとに。

第二話 一とこ交われば

高校で話せなかった人と大学に入ったらたん話すようになった。話したことなかった同じクラスの奴と天神で会ったら、すんなり話せた。天神とかで頑張ってるオジサンとこれ又、温泉の風呂とかいっしょになると話せるし。ナンパとか出来なくても、遠い海外では「観光？」「えーっ、そうでえーすう。」なんて会話出来たりする。とこ交われば。

第三話 「なぜ？」

今まで注目されていなかった子が、目鼻立ちが似た芸能人がデビューしただけで、ちやほやされだした。

第四話 「時代が違ったなら」

人を何人も殺した男がワイドショーに出てた。彼がもし、四百年前、世が戦国と呼ばれる時生まれていたら、彼はきつと英雄だったんだろう。以上四話のオムニバス。人の気持ちはうつろいやすく、時はすごくいたずら好き。だから、時代をよもう。だから

ら、前向きな気持ちをもとう。裏目にでも笑ってこようよ。でも疲れた時は、大船荘の風呂で、リフレッシュ!!! 書道部と言え、ビールはサービス。ということ。で荒鷲最後の投稿にFIN。

無題

三年 山本 浩司

私もこの書道部に入部して三年になります。この間に色々な人々に出会い、様々なことを経験しました。小・中学校と華やかな表舞台で常に活躍していた私にとって高校生活というのは暗闇に包まれた無味なものでした。しかし、この福大に入学して誰も知らないこの土地で私を迎えてくれたのがこの書道部でした。先輩方が優しく温かく私に接してくださって、また素敵な友人にも困まれ、かわいいうち後輩達も慕ってくるようになりました。で眠っていた自分自身を取り戻すことができました。そこで私は考えたのです。幹事としてこの部を発展させることで恩返しをしようと。その為には、どんなことも惜しまずやるのだという強い決意の基に活動していきたいと思ひます。

最後に、何年いや何十年後かにこの荒鷲を読む新人生の皆さんに言いたいのは、高校までは消極的だった人、又、いやなことがあった人も大学に入学して環境が変われば以前の自分自身を知っている人はいないのだから、ここで今までの自分の「わく」を取り除くことで、視野を広くもち、人間的に成長するチャンスだと思つて大学生活の一步を踏み出して欲しいということです。そしてこの部で人と人との温もりを感じて、思いやりを持った優しい人間になつてもらいたいと思ひます。
「心の広い人間になれ」第三十四代幹事としてこの言葉を送りたいと思ひます。

ものの見方

一二年 小川 貴史

最近よく思うものの見方に疑問を持ったり、不思議に思うことがいくつもあります。

ノボレスラーの、馬場という人物は、知らない人は少ないと思います。馬場のフロレスは八百長とか他にもいろいろなことをいろんな人から聞きます。でもそれは何を理由に言っているのだろうかと思うんです。言っている人のほとんどはフロレスに興味なく見ないで、唯かに50代後半の人だし、昔と比べてまた他の若いレスラーと比べて強いとは言えないでしょう。でも実際みていない人が八百長なことというのはおかしいと思うんです。見ている本人は、おもいこみし、八百長などとは思わず、むしろ八百長するのが本気でやるよりむしろむずかしいのとも思います。まあこんなこと言ってものは、方とは関係があるのかともうかもしませんが、ここでいちはん言いたいことは、フロレスをみんな見てね、ということだったのです。こめんなさ。

今度はまじめに言いたいと思いますが、小学校時代なんかにあべれたりボールを蹴ったりして窓ガラスをバリンという経験をした人はいると思います。その時は、みんな「ガラスがわれた」といいます。でも本当にガラスはわれたのでしょうか。ガラスが自らわれることはまず考えられないでしょう。なぜみんな「ガラスをわった」とは「われないの」でしょうか。また小学生なら分かるけど、大学生になってもこんなことを言う人はいませんか。他にも「ハッパが落ちた」や「カープベン」の心が折れた、など他にもたくさんあります。これも落ちたではなく落としたり、折れたのではなく折ったでしょう。もっとも物を正確に把握し正しい日本語を使わなければいけないんじゃないでしょうか。心あたりのある人はこの際しっかり考えなおしきちんとした言葉を使しましょうね。

めがねと私

一年 古賀 博之

福岡大学への入学が決まってから今までに自分めがねをかなり壊したと思う。はじめにめがねを壊したのは、入学する前の春休み友達とサッカーをしていた時であった。その時自分はキーパーをしていた。もちろん、めがねはかけたままで左サイドからセンターリングがあがり、至近距離からシュートがゴールへたたきこまれた。そして反応する間もなく自分の顔面にボールがえぐりこんだのであった。破壊されたのはフレームだけだったが、フレームといえども決して安くはなく、フレーム代で一万数千円かかった。その後、自分は断ったのだが、ボールを蹴った旧友は一万円くれた。どうも、ありがとう。

数日後、その日もサッカーをやっていた。今度は壊さないようにしようといめがねを自転車のカゴの中に入れていたが、戻ってみるときえていた。

今度はレンズとフレームを買わなくてはいいから四万数千円かかった。この時は親にお金を出してもらったから助かった。

そしてついこの前、野球をしていてレンズを割ってしまった。うしろがコンクリートのところでノックをしていたのがまずかったと思う。うしろに抜けたボールがはねあがり、自分も反射的に振返ってしまったので、カウンターの眉間には切れた。眉間から流血したがたいしたことはなかった。ちなみにこの時の修理代が四千円ちょっと。(保証期間が一年間あったため安かった)というわけで、めがねを壊すとお金がかかるので、めがねは使用している方々は壊さないように注意して下さい。これは要望です。

マスクとメロン

四年 脇田 昇英

ふと見上げた空が青かった
何かがあるというんじゃないけど
青い空をみつめていた

するとマスクがたずねるのさ
どうして空を見てたのかってね
そして僕はこたえるだろうね
空をみてればわかるよってね

何げなく筆をとり出して
思いのままに書いてみた
するとマスクがたずねるのさ
どうして書道をやってるのかって
そして僕はこたえるだろうね
書道をやればわかるよって

どうしてやればわかるのかって
マスクが再びたずねるのさ
すると僕はこうたずねるんだ
メロンは食べるとおいしいかって
そしてマスクはこたえるのさ

おいしいにきまつてるって

そこで僕はききかえすんだよ
どうしてきまつてるんだいとかね
するとマスクはこたえるんだよ
食べたことがあるからさと

だから僕はこたえたのさ
やってみればわかるよってね

*野口とは高校以来の友人であり
私の恋愛の先生でもある。

名前を益記（マスク）といい、
マスクンの名で親しまれている。

人の顔

二年 江上 由香里

人の顔。それは、大変不思議なものだと最近つくづく
思う。怒った顔、楽しい顔、驚いた顔、何かに感動した
顔。人は、自分の感情を顔にあらわす。色々な表情があ
るが、私の心を最も解放し、和らげてくれるのは、楽し
い顔、つまり、笑顔である。自分がどんなに落ち込んで

いても、そこに笑顔があるだけで、元気ができて、優しい気持ちになれる。

私は、本当に多くの笑顔によって支えられてきた。従って、私も、できるだけ多くの人に笑顔、楽しい気持ちを与えたいと思っている。しかし、人生というのは、いつもうまくいくという訳ではなくて……

だから、私はこう考える。いつも笑顔である必要はないと……。悲しい時は、泣き、くやしい時はくやしい表情をし、怒る時は、思いっきり大声をあげたりしても、その後にはこれで良かったんだとか、やったーという楽しい気持ち、つまり、笑顔がくればよいと……。又、笑顔は、他人だけでなく自分自身の感情を良い方向に高めてくれる。新しい目的へと自分を導いていく原動力となるものも、笑顔だと思う。

最終的に私が言いたいのは、心からの笑顔を失わずに生きていきたいということである。

適性検査

四年 島 幸輝

私は今、就職活動中だが、会社の試験で適性検査を課したとひろは、みな失敗した。

OB訪問、会社訪問した某生協にも適性検査があった。第一、第二志望の生協はボツになり、試験止まりで、ど

うしても面接まで進みなかった。気合いをいれて試験に臨んだ。

七月六日、午後五時すぎ、「魔女っ子メグちゃん」をテレビで見ていた時、電話のベルが鳴った。受話器を取ると、その生協からだった。左の耳は話を聞き、右手は紙に「第二次試験」の文字を書き、心は、「早く早く」と合格の言葉を心待ちしていた。結果は、「NO」だった。

「やっぱり、正直に答えたのがダメだったのかなあ」とつぶやいた。とつぶやいた。企業の方には、素直な自分を知ってもらいたかった。そのために設問一つ一つに丁寧に答えた。でもなぜこの日は、相当ショックで、力がなくなってしまったけれども、プールに泳ぎに行って、頭をスッキリさせた。

夜、NHK TVで、「性格変えてまでも就職しますか」というタイトルの番組を見た。性格検査がすでに企業はその結果を三時間後にそれをすすっている業者から手に取る。コンピューターでより正確に受験者の性格を知ることができる。この時点で、ふさわしい人物とふさわしくない人物をふりわけける。運よければ先へ進み、そうでなければ落ちるわけだ。

テレビに出ていた女子学生も性格検査に疑問を抱いていた。会社に入られる答に印にほとんどつけて面接



にまでこぎつけることが嫌だといっていた。私もそうだった。

しかし、内定を得るには、ある程度の建て前がいるのだとテレビを見て実感した。適性検査を軽くみていたけれど、こわい存在だとも思った。紙きれ検査で自分を知ってもらうのではなく、面接で知ってもらうほうがいいのではないだろうか。適性検査それ自体必要ないと私は思うけれども、決めるのは相手だからしかたがない。だ、一枚の紙切れなんかにまけずに頑張ろう、就職活動中のみんな！

一人暮らしの善し悪し

一年 青木 孝弘

「一年」という文字が板についてから、早速二ヶ月が過ぎました。ところで、作文なるものは、中学以来へちやっとならしたところ、やらで悩んでいたが、でも、懐かしい様な気持ちです。それでは、本題へ、今、私は、*single*、*二*なるものをしておりますが、今頃になってようやく、親の有り難みが分かりました。それは、言うまでもなく「金」です。私は現在、住所確定無職の男なので、自分が自由に使いたい分は、生活費と御相談の上からしか支給されぬことは、つらうございまして、私の大好きな、パチンコも五月の連休明け以来へあ、一ヶ月も一行ってないのです。まあ、大体、パチンコも必ず勝つという確信があれば、つき込むのですが、それもないので、チョットお休みです。

しかし、金の事ばかりに嘆いても仕方がないので、次へ行きます。それは、「御飯」です。人から聞いた所では最初の一月近くは、自炊出来るらしいですが、それを過ぎると、ズルズルという事だったので、私は、決心も堅く自炊を続けてヤルゼと思いましたが、流石に、毎日、自炊を続ける事はつらいので、週に二、三日は外食という型ではあるものの、ちゃんと自炊しております。（六月十九日現在）しかし、男が作るもの、いよいよ、レパートリーが決まってしまいつつ、そろそろ御飯を炊いてくれる人が現れるのを待っているんですが、それは、いいとして、本当に一人暮らしは大変なのかどうか、まだ判りませんが、今のところ、時間からの束縛は、一限目の講義に遅刻せずに出ること以外は、縛りも自由でよろしいです。あと、晩酌も気兼ねなくできる点もよいです。まあ、いいことづくめとはいえませんが、これから、やっと掴んだ大学生活を無駄なく、隅々まで過こしていけるように頑張ります。

自分

二年 久保 美奈子

積極性・行動力・素直さ・他人への思いやり・物事を深く考えること・我俥にならないこと・感情をすぐに出さないようにすること……
自分に足りないもの、直さなければいけないと思うことを思いつくままにあげてみた。今、この中で私が一番に望むことと云えば、「素直さ・自分に素直になること」であろうか。先日、友人〇氏が「自分に素直になること」とボツリと言った。「そのためには自分のことがわかってないのだめだよな。」と。自分のことというのはわかっていないようで、わかっていないものである。「こうだ」と決められる自分像みたいなものも言えないし、他人から見られる自分も又、違うものである。
以前、同輩数人で自己他人分析をした時に、みんなの事ってわかっていないようでわかっていないものだと思つた。一年半一緒にいて見ていないものが多い所も多くなるのだなあと。その時自分の事も他人から言われてた奥さんでさえ未だにわからないと言われていた。まだ一年半の付き合いで全てがわかるはずもない。でもそう言つて割り切つてしまいたくはない。もっといろいろな所を見て、知っていききたいと思う。そして自分の事も、これから先、どんなに親しい友ができて、どんなに愛する人ができて、自分と一番長い付き合いになるのは「自分自身」である。一生かかって解決するかどうかともわからないが、物事をするに当たってまず興味を持つことが大切。そのためにまずすべきこと。
「自分を好きになること」
大好きな友のことも大好きな自分の事もゆっくりとわかつていききたい。一生付き合える友と一生付き合える自分に出会うために。

無題

三年 牧本 朋子

趣味で小説を書いていて、よく思うのは、悲惨な話や絶望的な話を書くのはたやすいことだ。逆にいえば、面白おかしい話・楽しい話というのはとても難しい。
これは、生活についていえると思う。苦しいことを苦しんで見せたり、悲しいことを表現するのは楽だ。しかし、それを見せないことは何倍ものエネルギーが要る。勿論、人間だから感情を表に出すのは大事なことだけど、コントロールできないで周囲を不快にするのは少なくとも子供らしい行為ではないだろうか。
本当に強い人というのは自分の中に必ず他人を思いやるゆとりが設けてある。それは自分のエゴを抑制できてこそなせる業である。
己を振り返ってみると、まだまだという気がする。トレーニングの期間であると。気負わず、自然に、いろいろなことが受け入れられ、許容できるようになりたいと、役員になってから思うようになった。
「苦手だと感ずることのほとんどはトレーニング不足の結果にすぎず、不可能と思うことはたいてい逃げや甘えの変形である。限界を感じた時がその人の限界なのだ」と、高校生時代苦手だった先生の言葉を思い出しつつ、今は学ぶべき時だと痛感している。

“Never mind!” 私は、この言葉に、とれだけ助けられたことでしょう。

この言葉は、私が今年の二月中旬から三月中旬まで、約一カ月間イギリスにホームステイをした時に出会った、一番、心に残る言葉です。生まれて初めての海外、ましてや一カ月間、私にとって、いや高村家始まって以来最初の国内脱出ということで、出発前から、不安は大きくなるばかり。

案の定、イギリスに着いてからは、失敗の連続。午前中英会話のクラスに出席する為に、学校までは、憧れの二階建てバスでの通学。行きはよいよい帰りは怖いとはまさにこのこと。朝見る景色と夕方もう暗くなつて見る景色は全く別物、そう、降りるバス停を間違え、乗り越したあげくに、やっとの思いで家にたどり着いたときには、もう真っ暗、とんなに心配してらるうかと、ドアを開け、言う言葉は、“I am sorry. I am late.” そんな時いつも返ってくる言葉は、“Never mind, Never mind, Never mind.” これを何度繰り返したことでしよう。さあ、町の景色も見慣れて、二階建てバスも怖くない。ロンドンへだつて行けるようになったし、国際電話もかけた。寝起きのベッドでのTea。寝る前のコーラとサントウイッチ、ケーキにカスタートの食事にも胃が馴染んできた頃、私に迫ってきた問題は、言うまでもないでしょう。ウエストのきつくなったシーンスが明らかに物語っていたのです。わたしの心配も気に留めることなく、「裕子は、日本に帰ったらホーイフレンドに、いったい何が起こつたのって言われるに違いない。」と言うのです。でも、“Never mind!” 私は良いか悪いか、この“Never mind”精神に乗り取り、思う存分イギリス生活を楽しむ楽しむことができたのです。“Never mind.” 私はこの言葉を日本に持て帰って、失敗した時、くよくよせず、に、Never mind!” 行こうと思います。皆さんもどうですか

書道部に入部して

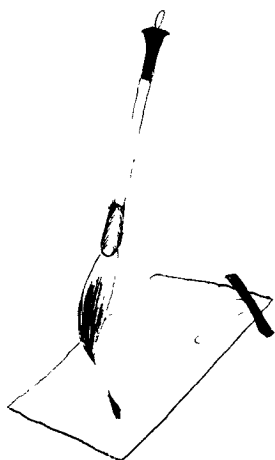
一年 西江 光由

僕が福大に入部して、もうはや三ヶ月がたち、大学の生活にもだんだん慣れてきました。最初はどうかと思つていた一人暮らしにも慣れてきました。

この書道部に入部するまで二つの部のどちらに入ろうかと悩んでいました。それは高校で入っていた柔道部か書道部に入ろうと思つていたからです。でも、体育系のサークルである柔道部には、高校時代のようについてはいけなかつたし、勧誘週間に部の説明を聞きにいき、先輩からいろいろ部の活動や行事などの説明を聞き、この部で四年間頑張れるのではないかと思えたので、書道部に入部しました。

高校時代に一年程書道部に入部していましたが、三年の時に入部したので、あまり思うように練習にいきませんでした。そのため少し悔いが残っていたので、色々な字体を勉強し、多くの字体を書けるように一生懸命やりたいと思つています。それにはやはり、高校まで習っていた書道を生かし、大学での書道にはやく慣れるようにしたいと思つています。

最後に、練習に休まずに出て、はやくこの福大の書道に慣れていきたいと思つています。そして先輩達のようにうまく書ける様に一生懸命練習していきたいと思つています。



やるべきこと

山瀬 一郎

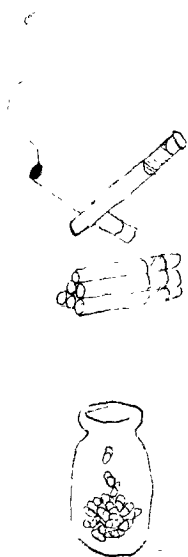
たまに独りで“ホー”としているとき、ふと一休様は何をしているのだろうか、これだ、いいのたろうか。思ひである、これを強く思ったのか、自分の祖父・祖母が亡くなった時、島原の赤松が噴火し大火砕流が発生した時、奥尻島の震災と今回の阪神大震災であった。その中でも特に今回の場合はテレビや新聞・ラジオ等でその悲惨な被害状況を報道しているにもかかわらず、ちょうどその時は学校の試験という事で馬鹿な私は勉強をしていたのです。ちょうどその頃阪神地区の自分と同じ歳の人はもちろん、小さな子供達も自分達のことよりもまず周りの人達のために必死になって働いていた。土砂・瓦礫の中に生き埋めになっている我が子や父・母・兄弟を手で助けようとする者いた。僕はそうだった状況を知らずから非人間的なことをしていた。試験中私何しても向こうの方の役に立ちたいと思ひ少しだけと鼻を、今も続けている。

日本の人口は現在約一億五千万人、うち今回の災害で貴い命が一瞬の内に無くなったかその数五千二百余人またその他の被害等を見るとあまりの悲惨さで断腸の思いである。なのに中にはまるで人事のように思っている物もある。動物以下である。もうとらえらるることは、行政のこの災害に対する対応の遅れもその一つであるが、それよりも何よりも自分の無力さである。これは自分に腹が立ったことではない。すぐにでも現地にへ行っている人々の役に立ちたいが、学校のこと・就職のことつまり自分のことで精一杯なのである。悔しくてならない。もう少し昔の武士道ではないか、国中のみんなが纏まり一つのことをやろうという風潮があってもいいのではないか。人間は、現見的に物事をとらええ行動できる唯一の動物である。何か一番大切で、今何をしなければいけないか、まわりをよく見て、現状を見れば答えは一つたと思う。

薬学部学生として

一年 前田 ゆかり

現在の書道部の中では唯一の薬学部学生ということなので、薬その他について少し述べたいと思います。まず、薬の飲み方について。皆さんはカプセルの薬を飲むとき、コップ一杯の水では飲みませんよね。たいていの二口で飲んでるはず。それでうまく飲めるときはいけど、もし食道の粘膜にカプセルがくっついたら？食道の粘膜は非常に弱く、そんな状態になったら食道が炎症を起こします。その処置の仕方はよく分からないけど、そんなことになったらきつとまずいんじゃないでしょうか。ということ、皆さん、カプセルを服用する際は水をしっかりと飲みましょう。次に、タバコについて。これは私的なことは入っていません、と言っても信じてもらえないかもしれないけど、本当に入っていません。さて、もう吸っている人に何かや言ってもしょうがありませんけど、まだ吸ってない人、まだ間に合います！タバコは体によくないです。今はまだ若いから良くて二十年後には体力が落ちてくるらしいです。近い将来、ガンの中では肺ガンがトップになるだろうと言われています。原因は勿論タバコが大部分を占めています。これでタバコが体によくないということが分かったでしょう？皆さん、体は大事にしなければいけませんよ。薬学部生としてのささやかな忠告です。



自由投稿

二年 宮原 正樹

今現在、私は20歳青年である。1999年の予言まではあと数年、果たして予言は当たるのだろうか。個人的にはやはりハズレであることを願う。それはさておき、あと2年もすれば卒業し就職しなければならぬ(エーストレイトならばの話だが)。私は企業とかは嫌いなので公務員を志望している。ところがこの不景気の中、やはり公務員に安住の地を求める者が増え、合格するのは困難なようだ。今年のS県の行政事務の倍率はなんと5.2倍と新聞に出ていた。大学受験でまた苦労しまた苦労するかもしれない気が遠くなるのだが、それでもやれるだけはやろうと思う今日この頃。

さて、固い話はこの辺にして、今車が欲しい。何が欲しいかというといまのところはTOYOTA「カレン」や「SS350」シルビア(新型)あたりかな?中にはこの2台のどこがいいんだ?と思う人もいるだろう。まあ、そんな奴はほっといてとりあえず欲しい2台である。最近雑誌で見たのだが、「サイノス」(トヨタ)がフルモデルチェンジしてミニソアラ風になるらしい。そういうわけではサイノスには少し期待している。カッコ良く、安く燃費がいいとくれば言うことなしである。150万あればソコソコの車は買える。これもコツコツと貯めてがんばるのである。

さてまた話は変わり、もう一つやりたいことがある。これは誰もが夢見る学生生活最後の卒業旅行である。海外に行ってみて見たい気もするが、高校の時に行った北海道へもう一度行きたい。寒いのは苦手だが、あの夜景とパウダースノーで寒さの忘れるほど素晴らしかった。またあの感動を味わいたい。以上3つのことを述べたが、すべてうまくいくように努力していきたいと思うのでみなさん決して邪魔をしないように!

二十歳に向けて

一年 横山 有美子

私は今年の八月七日には、もう十九になる。来年は二十歳だ。小学校低学年の頃は、六年生が大人に見えた。二十歳の人なんて、ものすごく大人の人だと思っていた。それがもう来年に迫っている。しかし、大学に入って、二十歳になるということが、それほど凄いことではないように思えてきた。二十歳になったからといって、急に外見が大人っぽくなるわけじゃないらしい。書道部には二十歳を迎えた先輩方が多くおられるが、外見はあまり「ものすごく大人」には見えない人が多い。

そんな先輩方も、活動している時は、やっぱり大人だなと感じる。わからない事を聞くと、丁寧に教えて下さるし、きちんとするときはきちんとしている。けじめがあつて、しっかりしている。私は大学に入るまで、外見的に大人になる事を夢みてきた。でも今は、外見的な大人よりも、精神的な大人になれるといいなあと思っている。二十歳になるまでに、しっかりした考え方や、行動のできる大人になりたい。そんな大人になるために、日々努力していこうと思う。

訳分からん

二年 大久保 隆史

最近、めっきり冷え込んできましたね。そろそろ炬燵を出さんといかんな、と思っています。最近、僕は映画を見るようになってきました。寒がりの私にとつては厳しい季節ですね、冬というつは。最近見たやつの中でしゅばかったのは、バックドラフト、バーフェクトワールド、シンドラーのリストとか、まだいろいろあります。貴方は悩んでいますか。私は非常に寒がりです、冬物の服は厚手になり、重ね着をするともゴモゴゴしてしまふのでいやです。やはり、洋画の方がいいですね。今、私は「自分って何？」っていうことでたまに悩みます。旅はやっぱり一人旅に限る。新しく冬物を買おうと思うのだが、ちょっと高いので、買うのにも一大決心が必要になります。なぜ、こんなことを悩むようになったのだろうか。邦画はよう分からん京都の四季をゆっくりと見て回りたいものですね。もううゝん、コストです。うゝん、コート買おうかなあゝ。洋画のほうが金はかかってるし、スケールはでかいし、感動物が多くていいつすね。自分の考えが、本当に自分の考え方が分からなくなる。秋の紅葉が一番、次に冬景色を見たい。イヤァッ、シャッシュヤッシュヤッシュヤッシュ。よしっ、買おう、でもそのためにはバイトして金を稼がんといかん。のやけど、寒くて動きたくはない、寒いのはいやだね。誰か泣ける映画を紹介して下さい。早く本当の自分を知りたいものです。来年も京都に行こうって誰か、コピーをしてください。ウゝッ、キャッキヤッキヤッキヤッキヤッキヤ。最後にこれを読んでの感想は？

おり

今、思うこと

四年 森山 清二

私達は多くの人に支えられて生きています。何かと個人主義と言われる現在、私達はそのことを忘れがちになります。……

一日の生活を考えてもそうです。電気や水を供給する人達、毎日大量のゴミを収集する人達等の支え、両親の支えによって私達は日々の、ごく普通の生活を送ることが出来ます。

大学生活の四年間にも、多くの人の支えがあったことは言うまでもありません。諸先輩方、同輩達そして後輩のみならずの支えで色々な経験することができ、自身を成長させることができたのだと思います。

逆に、私は他のみんなを支えてあげられたかと考えた場合、「先輩」とか「後輩」とかの言葉で片付けられる関係でなく、一人の人間として、どれだけ他人を思いやり、接することができたかという面で、まだまだ不十分であつたと思います。二十一年生きてぐらいでできるはずもなかったのかもしれないが。

ただ、人と接する際に心掛けてきたことがあります。それは「会う人には笑顔を与える」ということです。何でもない事に思えるかもしれませんが、私は結構難しく大切な事だと思います。まだまだ未熟者なので十分にできてはいませんが、この心掛けは、自分自身を幸せな気持ちにさせるためにも持ち続けたいと思います。

何だかまとまらない文章になってしまいました。最後にあと少し。この四年間で私は、多くの人に支えられ、多くの事を学びました。特に私が不得意な「人」として人と接する「人」という点では多くの事を経験できました。今後は、社会人として多くの人と接し、またその中で自分の自身の位置を確立していくことになりませんが、自分を支えてくれる人に感謝の心を持つこと、他人に笑顔を与えることを忘れず、自分のできる精一杯の力でまわりの人を支えることができる様に、努力していきたいです。

無題

四年 鶴田 恵子

私は、昨年の夏に、一ヶ月間フランスに、ホームステイをしました。前々から一度海外でのホームステイを経験してみたいと思っていたので、行くことが決まったら、ワクワクしたり、非常な不安にかられたりで、

私は、英語に興味（得意ではない）があったので、「仏語で通じなかったら、英語で何とか切り抜けよう」とか、「とにかく、ジェスチャーを加えれば何とかなるさ」という甘い考えのもとでフランスに来てしまった私は、外国人を目の前にしてSHYになり、生活環境の違いや意志疎通がうまくいかず妥協してしまったりで。こういうことは必ず起こるだろうと頭でわかっていたはずなのに、実際にそうなってしまうと、精神的に参ってしまつて、最初の頃は、「やっぱり日本が一番だわ！海外に来るなら、語学研修よりも、旅行で来た方がよっぽどいい」と何回も思いました。授業内容は、ひたすらディスカッションばかりで、日本では、ほとんどそういう風な授業はなかったもので、これも慣れるまで時間がかかってしまいました。

という風に、嫌な思い出ばかり書いてしまったけれど、やっぱりこういうのも最初だけで、帰国が近づくとつれて、「もっと居たい」という気持ちが高まったのも、本当です。

日本では味わえない貴重な体験をし、またその他にいろいろと学ぶことも多かったのです。今では、前に書いた体験も含めて、とても楽しい思い出として残っています。そんな気持ちにさせるフランスの魅力を、あなたも探しに行ってみてはどうでしょうか。

SENNA FOREVER

三年 久保 壮

音速の貴公子アイルトン・セナ、一九九五年五月一日彼は、この世を去ってゆかれた。耐え難い悲しみが、私の心にこみ上げてきた。彼が全身全霊を捧げてきたF1は今も彼の魂を受け継いで歴史を刻み続けている。新たな歴史を……

私が心から敬愛していた彼は、夢を追求め、最後まで何かを探し続けて、全身全霊で生涯を全うし、そして「神」となった。私達の心で、穏やかに、微笑む「神」に……

今、私は、夢を追って、人生の長い道のりを歩み続けている。叶うかどうかとも判らぬ夢を……しかし、夢は叶うか否かが判らぬ故に夢であると私は思う。その夢を追求めてゆくには、心の中に「エネルギー」・「神」が必要であると思うが、彼もそうであったのだろうか。彼を走り続けさせたものは、いったい何だったのか……私には、それが何かは判る害もないが、これだけは云える。「今、僕を走り続けさせてくれているのは、彼であり、彼の魂を受け継いだF1である。」

夢を叶える為には、「自分」を信じるしかないと思っていた私に、今、「自分」を勇気づけ、暖かく見守ってくれる「神」が、私の心に現れた……

「神」……それは、私の中で、いつも美しきエンジンサウンドを奏で、光輝く閃光のように走り続けている音速の貴公子……アイルトン・セナ

そう、彼は今も、風を切り、美しく走り続けている。私の……心の中で……

SENNA FOREVER……

だらく

四年 野口 益記

だらく、だらく、だらく、嫌なひびきである。

朝、起きる。それから、何もしようとしない。一日、振り替えると、ただ、ダラダラとしていて何もしていない。「時間がもったいない。一日、もったいなかった。何をしているんだ!」と、自分でそうわかっているのに、イヤでイヤでたまらなくなってしまう。無気力になったら、何もみえなくなるし、何にもする気にならなくなってしまうと自分で実感している。

もし、世の中が、だらくしたものであるならばと、このテーマを考えている時に感じ、そう考えただけでも寒気がする。しかし、考えようによっては、快適な生活を、ひょっとしたらおくれるかも!?でも、一日何もしなかったら、どうなることやら?

やはり、生きている上では、色々なことを行い、学び、吸収して、多くのものを自分のものにするべきで、自分を成長させなければならぬと、感じている。

だらくしてしまうと、そこで、自分の成長が止まってしまうような感じで、結局、そこまでの自分になってしまいうえ、不安になる。

今は社会人の一歩手前。

だらくせずに、今できることを、精一杯行い、これからの人生を有意義に過ごしたいなあ。

社会にでても、自分を見失わないように現実としつかり、向き合い生きてみたいなあ。

自分自身への挑戦

一年 森田 国昭

「憧れ」の大学生となって早くも一年が過ぎてしまった。この一年間というのは書道部とともに過ごしてきた一年間であったが、それなりに充実したものであったと思われる。

だが最近よく独りになって考えることがある。今の大学の生活を振り返ってみて、すべてのことに対して、しっかりと自分自身を見失わずに取り組んできたかという点だが、少々疑問の残る所である。一番恐いことが「周りに流される」ことではないかと思う。

大学生活の四年間というものは、とても貴重な時間であり、自分自身を探索するいい機会であると思う。自分自身を見つめ直す意味で「旅行」というものは、とても素晴らしいものだ。この「旅行」には、残り三年間このわり続けていきたい。旅行のほかに、こだわりたいものは山ほとある。そして、いろいろなことに対して自分の可能性というものを試していきたい。勉強・部活動・「?」の「?」を残す三年間、とことん追及していきたいと思うと同時に、うまく残り二つのものと両立させていきたい。

そして四年間を終えて、「俺はこれだけのことをやっただけ」という、しっかりとした「足跡」を心の中に築けるように頑張りたい。

経済の授業の中での一場面だった。

Y先生が突然、学生達に次の様な質問を、し始めた。

「あなた達は、子どもの頃、大人になったら何になりたいか、と思いましたか。」

自分もいろいろと考えてみた。小さかった頃はよく電車の運転手になりたいと思ったものであった。その次に、先生は、こんな事を言い出した。

「アフリカの飢餓で苦しむ子ども達に同じ質問をする、どんな答えが返って来ると思いますか。」

自分も一緒に考えてみた。たとえ貧しくても未来はある。きっと皆自分達の様に様々な夢を持っているだろう。しかし、自分の考えは間違っていた。先生の答えはこうであった。

「子どもたちは皆、こう考えます。『大人になるまで生きていたい。大人になりたい。』と。」

教室内はまたたく間に静まり返った。自分も、胸を何かで刺された様な衝撃を感じた。栄養失調で苦しむ子ども達にとっては、大人になる事、生きる事こそ唯一の望みなのだ。

自分は現在の人類の発展は、ゼロ・サム理論が成り立っている、と常日頃から考えている。ゼロ・サム、簡単に言えばプラスマイナス0の世界であり、人類の豊かさ・

貧しさをすべて足していけば、ゼロになるのである。言い換えると、先進国の豊かさは、貧しい国々の富の収奪によって初めて成り立つのである。

思えば人類の歴史は、富の奪い合いの歴史でもあった。今でも深刻なアフリカの飢餓問題は、近代の帝国主義における植民地支配の下で行われた富の収奪の後に残った深い傷跡である。また、これらの事は我々個人レベルでも同様である。自分達の豊かさがどこから来ているのか、なぜ、飢餓で苦しむ者がいるのかを今一度考えてみてはどうだろうか。

日常の中から

四年 松元 恵美

周りの人に恵まれていると思う。大学生になってからというものは、本当に「一人」の運に恵まれていると感じる。出逢った人はい人だし、そして様々なことを教えてもらった。

私の友人は非常に面白い。また個性的で、そして自然体である。皆自分のやりたい事をやっている。だからといって、社会性がないわけではなく、誰とでも話せるという感じがした。「洗練なき個性は野生である」というように、個性的という言葉の裏には社会性がなければならぬ。

この人ってこんな一面があったのかと、意外な一面を発見した時は本当に嬉しい。そして楽しい。十二単衣の様なカラフルな意外性を持った人間になりたい。意外性は私の人生の最大のテーマである。

最後のゼミの時間に先生がこうお話になった。「私はこの時間に色々な人を連れて来た。なぜなら、そういつた『違う人』という存在をすんなり受け入れるという柔軟な考え方を欲しかったからだ」と。

他の人は自分と違って当たり前であり、そこには優劣はないと考えることが出来れば、今大きな問題となっていないはじめはなくなると思う。ちょっと極端すぎますが、対人関係を含めて、全てのことに「でもー」だつて「考えてい」と思っている。そのために「でもー」だつて「かし」時々つい言ってしまう、ハツとさせられる。

「どうせー」の三つの言葉は使わないようにしている。しかし、ポジティブとは言っても落ち込む時もあるし、悩むこともある。そういう時は徹底的に悩むようにしている。今悩んだ事は将来絶対プラスになると信じて……。



「理想」

二年 光石 恵了

あなたなら「理想」と聞いて何を思い浮かべますか。

①理想の生活②理想の人生③理想の友達④理想の異性のタイプ⑤理想の結婚⑥理想の政治⑦その他の理想、と人それぞれだと思います。さて、④について語ると字数オーバーしそうだし、かといって他のものは話が続きそうにない。①は3行、⑥は6字で、②と⑤はヒミツ、困ったところで⑦を選択。そこで、「理想の車社会」について書きます。

平成6年4月21日、福岡県交通安全協会が重大なミスを犯した。まあ、貴ってしまえばこっちのものと言う訳で、人のドライバーとして言わせていただきたい。

「現代の車社会は乱れきっている。10キロ20キロのスピードオーバーは当たり前で走っている、標識の規制速度を守って走っていたPさんも渋滞させたり追い越されたりするのが趣味ではないので、後ろに連なってしまう時にはアクセルを踏み込むことになる。また、「黄色信号はブレーキで安全に止まれない時に限り行っても良い。」のはずなのに、黄色イコール青、または急

げと勘違いしている人が多く、その為に右折できずにクラクションを鳴らされているPさん。右折が苦手なPさんにとってバッシングして卜さる殿方は神様のように見える。

そんなPさんも近頃生意気にも車を乗りまわして現車社会に染まりつつある。青信号でさえ止まってしまったPさんが懐かしいものだ。結局Pさんも他のドライバーを批判しつつも「自分中心運転」を実行しているのだ。車社会だけでなく、他人の批判をすることはとても簡単です。何に關しても理想が理想で終わらないように、まず自分を見つめ直して、現状に満足しないで常に向上心を、そして思いやりをもって生きていきたいものです。「思いやり、譲りあいできわやか交通」、マナーアップ福岡、マナーアップ書道部。

理想

年 緒方 良介

理想というテーマについて何を書けばいいか困っているが、何か書かないとしめ切りに間に合わなくなるので書きます。理想という言葉でふと思いついたのは、よくテレビの中で「理想と現実の違い」と言っているのを聞くが、理想は、ただもっているだけで現実になるのは難

しいのだろうか。自分なりにこの事を考えたが、やはり理想となると人は現在の状況も考えずに高望みしてしまからでしょう。これは、ほとんど自分がそうだったからこのような事を言えるのであって決して人々全員がそうとは限りませんので気を悪くしないで下さい。ここまできて自分の理想の事をちっとも書いていないので書くかと思ひます。自分の大学生活の理想は、一、二、三年と単位を完璧に取って四年には就職を早く捜して夏ぐらからは思ひっきり遊ぼうというすばらしい事を考えていたんですが、それもたった二か月しかたっていないのに不可能という文字が見えてきました。それは、自分が選択した授業が思つてものとはぜんぜん違つていたという事です。また、寝坊して授業を休んでしまうと次からはその授業にはあまりでなくなつたりしました。自分で理想をだめにしてしまいました。やはり僕にとって理想は現実にならないようです。だから今では、この不景気の世の中就職できて四年間で卒業したいと考え始めています。理想を現実にするには高望みしないか、人並以上の努力をしないとけないと思ひました。と、ここで終りにしようと思ひましたが、随分余つたので理想の女性でも。やさしくて、素朴な感じの人で、かわいくて気が合う人で、要するに自分が好きになつた人が理想に近い女性だと思ひます。訳の分からないことを書いて変な文章になつてすみません。

「理想」

四年 吉田 啓子

理想。何を綴ろう。あれこれ悩んだ挙句、私が思ひついたのは……

ねえ、N江君の理想のタイプは？「頭の良さそうな子がいいなあ」なかなかN江君らしい。K子ちゃんは？「そうねー、これはあくまで理想だけど、自分だけをずーっと見守ってくれる人がいいな」本当にこれでいいの？M山君は？「笑顔が可愛くて、性格は優しく、しっかりとしたところを持っている人」書類作成中にありがとう。Tちゃんは？「笑顔が可愛くて、髪が長くて、家庭的な人で、芸能人に例えるなら田中美佐子みたいな人。K良君は？「色白で、目がパッチリして、髪が長くて、デー、いちいち文句言わない人。激烈バカに出てくる女の人はイヤ。田中美佐子。笑顔が可愛い人。」TとK、ファミコン中にお邪魔しました。E美ちゃんは？「人の気持ちを分かろうとする人」実感ももってるね。Oちゃん？「愛想があつて、ホルスタインの様なバディの人」あ然。S君は？「自然な人」シンプルでいいね。N口君は？「氣を使わなくていい人。おっとりした人」といいつつ彼は分らないらしい。U井君は？「おちゃめで、氣が利く子」忙しい時に申し訳ない。Aちゃんは？「足と肌がきれいで、家庭的な人。富田靖子」肌にこだわる

とは。M庭さんは？「話ができる人」どんな話でしょう。W田君は？「変な意味じゃなくて、勉強なんてできなくても、頭がいい子。でも結構バカ。頭がいいというのは奥深いんよ」照れながら？私を叩きつつ答えてくれてありがとう。

同輩の皆さん、御協力ありがとうございました。本音は他にもまだある人がほとんどでしたけど、ここでは伏せておきます。これから、理想を大切にするのでしよう。

ちなみに、本人の理想は、「おもしろく、かつ夢を持っている人」であります。

理想の：

三年 池田 留理子

まず、理想の人物について。私はいまいち積極性に欠ける。それは小さい頃からわかってのことだし、また、私の最大の悩みでもある。大きくなってくると、目分から行動しなければならぬことが多くある。適当にしても、結果はなんとかなるのだが、はたしてそれが自分の納得いくものかどうか。

そして“やさしさ”を持つこと。本当の意味での。人当たりがやさしい、ということもだが、それ以外の別のも。本当に“やさしい”という人は少ないんじゃないか、と思う。もしくはなかなか“やさしさ”を見出だすことができないか。

それから“気配り”。常にまわりをよく見る。見るだけでなく、理解し、行動すること。先見性、協調性を持って、積極性も忘れずに。そして“やさしさ”も。

そして何よりも自分を高めること、向上心を忘れないこと。自分のことは自分で磨きをかけなければならないから。

あとは、もっと“素直”になること。いろいろ考えなければならぬこともあるけど、純粹な気持ちになるのも大切。本当に素直な気持ちになって“ごめんなさい”と言える人が少しうらやましい。

ここで少し理想の男性を。ハタチ過ぎると、理想も現実に近い。これだけは譲れない、というところももちろんあるが。世の中“いい人”は沢山いると思うけど、自分とペースが合う人はあまりいないのでは。と、いう訳で、自分とのんびりできる人、ということにしておこう。

理想

年 松本 まり子

理想：考える最も完全なもの。また最善の目的。人は、様々なことについて、様々な「理想」を持っているものだと思う。ただそれらは、ある程度似通った所があったとしても、人によってそれぞれ異なるものである。今、この紙上で私の様々な「理想」を書き並べたとしても、皆さんが退屈されるだけなのでやめておく。

理想について書け」と言われた時、本当に困った。だいたい私は、昔から文章を書くのが下手である。自由投稿であれば、自分の好きなもの、好きなことについて思いっきり書くのに、テーマを決められると頭がパニックになる。今も自分で何を書いているのか分からなくなっているが、とにかく書こう。

「理想」という言葉は、「希望」という言葉、「希望」や「夢」という様な言葉と似ているように思えたが、ちよつと考えてみると、異なる点があった。それは、「夢」や「希望」は「叶う」と言うが、「理想」は「叶う」とは言わないことである。

そう気付いた時に私は考えた。理想はあくまで理想であって現実ではない。ただ、人は、現実が理想に限りなく近くなるように努力しながら生きているのかもしれない。

ない。」と。そして、人は常に理想を高く持ち、その理想を追い続けて生きるのだ」と。また、今述べたように生きるのが、私の理想である。

終

「理想」

四年 安武 淳

「理想」自分なりの言葉で他に置き換えるなら「憧れ」「目標」となるかな。人は誰でも次に来る瞬間に対して、その人なりの理想であるビジョンを描く。自分もそうだが、例えば大学に入る前など色々な情景を頭に巡らせながら一生懸命勉強していた。しかし現実とは違っていた。でも、理想と現実が掛け離れていたからといって不幸ではなかった。寧ろ幸せだったかな。理想を理論づけて述べるつもりはないが、大切なのは理想を持って生きるということではないだろうか。自分の好きな言葉に「人事を尽くして天命を待つ」という故事成語がある。意味は人力の限りを尽くして、結果は運命に任せるというものだが、自分は結果が理想だとしたら、それはなるようにしかならないと考えると結果ばかり気にしてくよくよするより思いっきりまっしぐらに努力できると思う。勿論結果が全てということもあると思う。でも自分はそれで自分を憐れむということだけはしたくない。それも運と考えるしかない。それよりも一生懸命努力しようという姿勢をなくしてはいけない。苦しい時は小さな喜びでも幸せを噛み締め、理想を忘れず明日を見ながら生きていきたい。

環境破壊と心の破壊

二年 鶴田 政彦

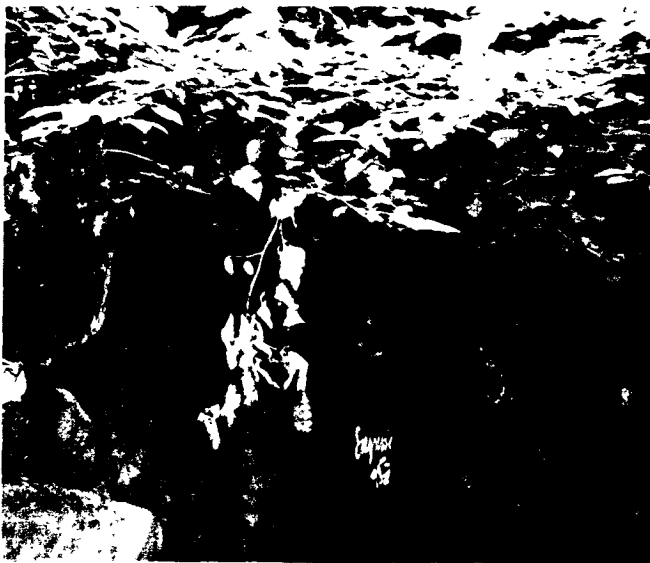
自分は子供の頃からよく、地学の事や特に気象・天気などに興味がありました。そんな中で、環境と言われると自分は自然環境というものが頭に浮かびます。夜中、自分はこの文章を書いている訳ですが、まだまだ黎明は遠く鶏の鳴く声はしていません。

子供の頃、よく図鑑でみていた自然現象には何と云うか神秘的なものを感じた。陽炎、蜃気楼、虹、台風などその一つ一つが、幼い自分の脳裏に、何かを訴えているような気がした。でも、そんな自然の声や言葉など聞こえる訳もない。子供の頃、ニュースなどで自然破壊の映像や、近くの山が崩されるのを見てみると、妙に不安や危機感みたいなものを感じていた。大人達が、自分の便利や快楽の為に神秘的なものを破壊していくその姿は、ちっぽけで、狡猾な生き物に、幼い頃見えたのを覚えてる。

そして、現在、時を経て、大学生になった今の自分がある。受験のノウハウや、偏差値を見てきた変わりなりに、自然を見る目を失ってしまった様な気がした。自然を傷つける事を嫌っていた自分が、知らず知らずその環境破壊の一員を担っていた。幼い頃、感動を覚えたその自然の姿は、自分に何を語ろうとはしない。

筆を置いて、ふと空を眺めれば、いつの間にか虹が消え、黎明が訪れた。鶏の喧嘩が止まった。そんな時、どこからか声がする。「さあ、踏みなさい。君が便利や、幸福を握る為に、君の最も尊く、神秘的に感じた物を壊すのだ。」自分の企められた心が、囁いた。私は転んだ。神は我々に最後の信託を下された。

「悔い改めよ」と。



環境

一年 濱地 宣充

地球の豊かな緑と水は人類を育んできた、その地球を過度に利用した結果、自然のバランスが崩れ、環境破壊が人類の直面する最も深刻な問題となっています。

地球環境問題には、地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、熱帯雨林の破壊、砂漠化、野生生物種の減少、海洋汚染などがあります。どれも一人の力では解決できない問題です。

でもそこでふと考えました。僕が運転する車の排気ガスは地球温暖化、酸性雨につながり、僕が数年前使ったスプレーがオゾン層の破壊につながり、僕がたまに使うわりばしが森林の破壊につながり、僕が昨夜殺した蚊は野生生物の減少につながり、僕の友人が昨年海に捨てたタバコは海洋汚染につながります。

自分には関係がないと思って多少しは関係しているのです。

自分一人では大きなことはできませんが、小さなことからコツコツとやっていきたいと思います。

環境

四年 山井 和弘

「環境」といっても様々なものがあるが、ここでは身近な環境について話してみたいと思う。

私は二年前に福岡大学に入学し、今まで生活してきた、この時点で高校とは違う環境に置かれていたのである。大学は今考えてみても本当に自由であるか、甘やかなければ、学生生活が全く無意味になってしまう。そこで私は、サークルに入ろうとし、数多くの中からたまたま書道部を選んだ。これが成功したのである。

先輩、後輩、そして同輩に恵まれ、のびのびと活動できた。これは感謝しても足りない程である。また書道部という環境を通して様々なことを学び得ることが出来た。

時には先輩から、自信がなくなる程怒鳴られ、考え悩みそれを克服したこと、そしてある時には行事を通して、部員みんなと喜びを分かちあえたこと、他にも数えきれない程の思い出をこの環境のもとで得ることができた。これはこの先忘れることはないだろう。

最後に私が言いたいのは、この環境を壊さないでいてほしいことである。この先、時代の流れて譲歩しなければならぬこともあるかもしれないが、本質は見失なってほしくないものである。確かに楽しいことは確かに手を出せば、楽しいかもしれないが、同時に苦しいことも経験するからこそ新しい自分を見つけ、今までの自分を乗り越え、ひとまわり大きい人間になり、またその経験を分かちあえた人間と真に友達になれるのであると思う。

これまでの先輩方は、おそらくこの環境に満足して卒業されていったと思う。私も満足している。今現在の我が部の環境は、数ある環境の中でも治れる環境であり、これからそうであってほしい。

人による環境

二年 竹下 裕子

さあ、今回与えられたテーマは「環境」ということで、まずは去年の荒鷲を開いてみる。実を言うと去年書いた自分の原稿のあまりの恥ずかしさに見るのがイヤでじつくり開いたことはなかったのであるが、一年たちそろそろ冷めたところで先輩同輩の原稿を読んでみる。文章とすべしもので普段あらたまっては出さないような面も、文にはその人の素顔が見えたりして面白い。改めて感心したりする。そんな事を考えながら眺めているうちにある事に気が付いた。ない！去年のテーマに環境はなかったのである。（よく考えれば当然の事ではあるが……）これはしまった。参考に読んでおこうと思っていたのに。しまった。してやられた。しょうがない。やはり人間素直に書くべきである。で、環境といっても広いものでさして何を書くかと思ひ悩む。さあどうしようか。字数もだいぶ稼いだことだしそろそろ本番に入らなくては……

あるカメラマンがどこか飢餓に苦しむ国でその後世界的に影響を与える決定的瞬間の写真を撮った。それはやせ細った小さな少女がうずくまるその背景で、その死をじっと狙うハゲタカの写真。このショッキングな一枚でカメラマンは絶賛されたが、その栄光の反面どうしてその少女を助けてやらなかったのかという批判が世界中から向けられ、この葛藤に苦しんだ彼はその後自殺した。



彼を死に追いやった原因の一つは彼に白い目を向ける人によって作られたその周りの環境である。環境の中で一番怖いのは自然やそういうものではなく、人によって人に対して作られた環境なのではないだろうか。どんなに強い人であっても堪えきれない苦しさがあるそこにはあるのだらう。とりあえず、当人の苦しみを気付こうともせず、自分の価値観の正義だけを武器に集団となって人を傷付けたこの出来事は、納得いかない非常にショックなものでありました。

大学生活で何ができるだろう

年 緒方 勝則

福大書道部に入部して早一カ月を過ぎようとしています。最近いつも思うことがあります。それは、今の自分自身についてであります。何故かという、自分の描いていた学生生活とはあまりにも掛け離れたものになっているからです。まさか文科系のそれも書道部という思ってもみなかった部に入部して。こんなにも充実した日々をすごすとは予想もしませんでした。自分は、浪してこの入学にやってきましたわけですが、まわりの人々が自分よりも年上に見えてしまうのは、自分がまだ成長していないからでしょうか。書道部の先輩方を見ると、自分の経験の少なさがしみじみと感ぜられます。今からの大学生活四年間の中で、いろんな人と出会い、そしていろんな経験を積み重ねながら日々精進してゆきたいと思います。もうひとつ最近思うことは、今、自分は何かできるか、ということですね。これという趣味もなかった自分にとって、書道部に入って、書道にうちこむことによって新しい自分を発見し、そして書道以外の事でも、積極的に何事にもチャレンジしていきたいと思えます。変な文章になってしまいましたが、今後とも、諸先輩方に、歩でも近付けるよう頑張っていきたいと思えます。

私にとっての大学

二年 久田 理恵

自分は何のために大学に行こうと思ったのだろうか。中学校に入学した頃から自分は大学に行くものだと思っていた。その具体的な理由が何であったかは分からないが、よくよく考えてみると理由らしきものはいくつかあった。それらを全てとまではいえないが実現できそうなのが大学だという結論に達したのだと思う。

そのうちの一つは英語を勉強したいという強い気持ちであった。中学校の頃は現実の厳しさをわかっていた。かたので航空会社に入って両親を色んな国へ連れて行ってあげようと思っていた。そのためには英語が必要だと考えた。そこで英会話部に入部した。英語の成績も良かった。しかし高校三年頃から英語の成績は急降下を始め、今では辞書なしではさっぱりといった状態である。結局私はフランス語学科の道を歩むことになった。それでも語学の勉強ができるのは嬉しかった。大学の合格発表の時は「フランス語を極めよう。一などというあつかましい決意をした。誰も信じてくれそうにないが、それにしても道は険しい。

もう一つ、福岡大学に入学できたらやろうと思っていたことで実行できたことかある。それは馬術部への入部である。馬術部での練習が私にとっては一番やりがいがある。馬に会うと幸せで素直な気持ちになれる。

書道部の入部は考えたこともなかったが、入部して良かったと思える。私を入部へと導いてくれた先輩には感謝しても仕切れない。私を奥深くは入部していいなかった先輩も分かっている。それとこれとは楽しい大学生活にもならない。求めているところと私は合っている。

他にもやりたいことはある。アルハイトやホームステイなどあれば足りないが、大学ではやりたことを実現でき、そこを追求できる所と私は思っている。

大学について

三年 太田 美和

このテーマを考えやすくするために、次の観点から述べていきたいと思う。

“なぜ大学に行くのか”

理由として、高校の大学受験中心の勉強などから無意識のうちに“大学は行くもの”と想っていたこと、また、社会に出るまでの息抜き（オアシス）の場であることが主に挙げられ、ほとんどの人がそうだとおもう。

中には、専門的に勉強したいということもあるが、そういう人はどちらかといえば少ない気がする。

理由はともあれ、大学に入ると四年間という時間が与えられる。この時間をどう使うかは個人の自由で、何もしないで過ごす人もいれば、いろいろと忙しい人もいる。ただ言えることは、私達は学校に年間数百万円前後の金を支払っている事実があること。時に、「何のために大学にきたのか。」「かったるい。」「やってられん」という声を聞く。学校は義務教育でないし、金の無駄だから。迷っているなら、時間はあるから今からでも何か見つければいい。

学校から元を少しでも取るか、大学生活で何か見つけなければ、もったいないような気がしてならない。

それが勉強（本来はこれが望ましいと言われるが）であれサークルであれ、学校主催の催しであれ、その他い

ろんなことでいい。

その人自身が入学に入ったことで何かを得られればそれでいいと思う。

大学。それは自分自身を見つけるための機会である。つの場のような気がする。

「大学について」

一年 青山 佳代子

私は入学という場所に中学生の頃から憧れていました。中学の頃、私は数学と理科の成績が悪く、テストが返って来るたびに

（好きな国語と社会だけでできればなあ……）と考えていました。

だから、自分の好きな勉強だけができる場所・入学に絶対行きたいと思うようになりました。

しかし、大学に行くためには高校に行かなくては行けないので、何とか五教科で高校に合格しました。

入学した高校は、創立五年目の新しい学校で、まだ実績のない所でした。そのため先生方は進路に力を入れて

いて、私は自然と大学のことを真剣に考えるようになりました。

そんなある日、図書室に行く途中で、大学の偏差値のポスターをじっと見ていたら、ふと

『歴史』

という学科が目にとまり、そこを通りかかった担任の先生に話すと、気軽に

「うん、いいんじゃないか。」

と言われて、そのまま年間思い続け、何と本当に受かりました。

もちろん、その気軽な先生は丁度しで褒めてくれて、人喜びしてトさいました。

今、こうして入学にいて、好きな勉強ができるのも、その気軽な先生のおかげ、るかなと思います。

大学に入学して、やっぱり高校とのギャップに驚くことも多かったのですが、この頃ようやく慣れてきました。

大学の先生は、クセがある方も多いですが、やっぱりかできるのだから、頑張ろうと思います。

今、何を求めているのか？

二年 今四年

汝は冒険者か、

危険という名の滝を漕ぎ抜け

その奥の伝説の止体を求めるのか？

「ならば、我を求めよ」

最近、頭のなかである小説の冒険のこの文が浮かんでくる。はたして今自分は、大学生活のなかで、何を求めようとしているのであろうか。

一年間、こうして大学生活を送ってきたが、何かに集中しているということが少なかつたような感じがする。やる気が起きなかつたといった方が妥当かもしれない。それは勉学にしろ部活動にしろ、その魅力というものが感じ取れなかつた。もちろん、入学当初はやる気になつてあふれていた。しかし今では、受け身的な立場になつている。

それでは、一体入学は何をする場であるのであろうか。大学生活を送ってみると、することは沢山ある気がする。時間に限りがあり、その沢山あるものをすべてすることは不可能に近いかもしれない。そのことで今、迷っている。大学で何をすべきなのであろうかという問題に到達する。

考えるばかりで行動しないのは四年間という短い大学生活を無駄に過ごしているにすぎない。無駄に過ごさないためにもとめやす行動してみよう。たとえば間違っている行動しないよりはましである

「黎明」という言葉がある。夜明けという意味であるが、新たな大学生活の出発としてこの「黎明」という言葉を自分の格言として、今後の大学生活に響いていきたい。

大学生活

二年 川原 和

僕が高校生の時に一番あこがれていた大学生は、めぞん一刻の五代さんです。そりゃ五代さんは貧乏で、大学に行かないでバイトばかりやって、ろくに勉強しないで就職も失敗したけど、僕は五代さんみたいにいろんな人と出会って一步步成長していく大学生活もいいなあと思っていました。

大学に入って約二年、僕は波乱万丈の生活を送っています。親にだまされて自修寮に入り、神のいたずらなのか書道部に入りました。でも僕は今では親にも神にも感謝しています。この二年間でいろんな人達と出会いました。中には、「こいついつか後ろから刺してやる」と思った人もいれば、「こいつだけはかなわんなあ」と思った人もいます。こんな人々とつき合っていく内に、僕は一步步成長していったのです。何も大学に入って僕が覚えたのは酒とタバコと合コンの上手なやり方だけではないのです。(念のため)それにしてもとりわけ書道部で出会った十七人の仲間は何か特別な物を感じます。鶴田、カラオケで暴れるなよ。今西、編集お疲れさん。森田、お前ん家に電話してもいつもいないな。宮原、早く車買えよ。大久保、もう頭そるなよ。木田、班長お疲れさん。織田、寝言いうなよ。小川、これからも原チャ

リかしてね。久保、またごはんたべさしてね。江上、お前も最近家にいないらしいな。高村、車運転しろよ。内田、馬から落ちるなよ。光石、カラオケばっかいくなよ。竹下、クーラ ないと暑いぞ。武迎、試験の時はたのんだぞ。川畑、授業に出ろよ。住吉、コーラごはんはおいしかったかー。でも最後に天下を取るのはこの川原だということをおんな忘れるなよ。

以上、僕のこれまでの大学生活をふり返って見たのだが、とりあえず授業に出てみようかなと思います。来年は、「とくたい」をとってみんなにロイヤルホストで好きなものをおごるぜ。(たぶん)



福大に入ってから現在までの自分

一年 浦吉 修

福大書道部に入ってから二月ちょっとたちましたが、今から入学當時を振り返ってみると、暗い気持ちで生活していた自分がとても懐かしく感じられます。今から二ヶ月前、僕は志願大学に二連敗して絶望のどん底にいて、希望も何もわかないような状態でした。その上何をしてもろくな目にあいませんでした。僕は四月十日くらいから一人暮らしをすることになったので、入学してからのちよとした用事でも、下関から来なければなりません。間違った一番酷かったのは、第二外国語選択したのが十五分間の為にわざわざやって来たのはいいが、抽選に落ちてそのまま疲れきって家に帰ったことです。一人暮らしを始めてからも、一日目に自転車の後輪がパンクし、そしてあくる日には前輪がパンクして、何処に何があるやら、道すら知らない時に、自転車を引き張りまわして店を捜しながらさまよっていたことなど、いろいろありました。しかし、福大にきた友達もなく、ろくな目にもあつたない僕の生活が変わっていったのは書道部に入ってからでした。友達もでき、先輩方にはドライブや飲み会、カラオケなど、いろいろな所に連れていかれてもらい、毎日の生活がとて楽しくなりました。今では二ヶ月前のつらい生活がずっと昔のようには感じられなくなりました。今では福大に入ってから、又書道部に入ってから大変よかったです。いまは確かに練習はきつけれど、きつい分ほど充実感が得られるし、だんだん字を書くことが楽しくなってきました。これからもっともっと一回生の人達や先輩達と仲良くなれるように、又書の技術を上げられるように頑張っていこうと思います。これからも、宜しくお願いします。

「一人暮らし」

二年 織田 修平

久しぶりに作文を書く。小学生以来である。課題は自由であるが、当初は「私の苦しい人生」と題して、書くかと思っていたが、それでは暗くなってしまうので、悩んだ末「一人暮らし」と決まったのである。現在、自宅通いの人はかわいそうである。何故かって、そりゃあ「一人暮らし」は、楽しい事がいっぱいあるからだ。そんな諸君のために、一人暮らしのよい点を述べてみよう。自分を直せる。世界が広がる。親に縛られない。遊び放題。友人を泊める事ができる。パーティー・宴会ができる。自由に異性を連れて来れる。「男なら、Hビデオを鑑賞できる。一家の長である。趣味に走る。門限がない。恥ずかしい事（？）ができる。つまらない事をして、散らかし放題。ずいっと寝ることができる。など、色々ある。要するに、親の視線から離れて、自分のやりたい事ができるのである。また、人格形成にも、自覚にも目覚める。逆に欠点とは云えば、なまそうだが、些細な事でも述べるとすると、寝坊する。洗濯・掃除・料理が面倒。これくらいである。もうそのことはだれもが承知している。しかし、その欠点もあるからこそ「一人暮らし」だと私は思う。自宅生諸君よ、「一人暮らし」をしよう。いい経験になるぞ。将来のために。だが、「地元だから」「親が、・・・」という声が今にも、飛んで来そうである。確かにそれはある。残念だ。一年でも半年でもいいのに。私たちが、ゆくゆくは、社会人となり、転勤の際一人暮らしになるかもしれないが、やはりそれは別ものだと思う。「一人暮らし」を満喫できるのは、大学時代だけであろう。私も、あと二年ある。これから、楽しい事ばかりとはいえないが、何が起こるのか、何が立ちはだかるのか楽しみである。最後にになりましたが、私は国語力がない故、文章が下手かとは思いますが、あしからず。

年間行事

クリスマス・パーティ

卒業生歓送会

春季合宿

新入生歓迎会

学内展

夏季合宿

七隈祭

西日本高等学校揮毫大

クリスマス・パーティー

改選もまだ終えぬままに十二月十一日、場所はセミナーハウスでそれは行なわれた。

思い思いの服装で、くだけた雰囲気の中、クイズなどのゲームがすすんでゆく。日頃は福大節などでしめるような居酒屋コンパをしているあの書道部とは思えない上品さである。このときはかりはと着飾った女子部員と居心地悪そうなスーツ姿で食べてばかりいる男子部員の姿が対照的だ。しかし、どうとりつくろっても話題の内容が変わらないのはしょうがないことのようにだ。

食事に舌鼓を打ったあとはおまじかめのケーキかくはられる。ほかにデザートはアイスクリーム。食べてるときも部員のお喋りは止まらない。

ハスト・ドレッサー賞は部員の投票により、同生の竹下さんと森田君が選ばれた。二人ともややはにかみながらの受賞であった。

最後にフレンチ交換。期待が高まる一瞬である。皆が持ち寄ったフレンチを混ぜて配るのだが、これがいつも波乱に満ちているとてつもなく高価なものを買って自分が入れたのに、返ってきたものは……というひとや、明らかに女の子（あるいは男の子）向けのフレンチかはいっていたりして、世の中油断かできない。

何はともあれ真冬の夜はこうして楽しく過ぎたのであった。

卒業生と先輩達へ

通称追いコンと呼ばれるあれであるが、卒業される四年の先輩がたをお送りするもの。今回も昼にスポーツ、夜にコンパの形だった。昼は四回生たつての希望でバトミントン。空振りか連続したり、熱いラリーがあったりと盛り上がる。

しかし、その最中にも、ふと「もうこの先輩方とはなかなか一緒に遊んだりすることもできなくなるんだなあ」という気持ちかわいてくる。思えば、なんとお世話になったことか。

その学年の男性ではたった一人部に残り、歯を食いしばって幹事をしてくださった大倉先輩。女性では二代目にあたる役員をされたきたお姉さん肌（すみません）の佐々木先輩と「書道部の母」亀元先輩。キュートで笑顔を絶やさない小田先輩。教職にはげむ、しっかりされていらっしやる印象が強かった坂井先輩。カラオケの女王（無礼をお許し下さい）中村友理子先輩に、自分なりの生き方を貫く中山先輩。フランス語の神様のような細川先輩。

ひとりひとりの先輩方に数え切れぬほどの思い出があり、いくらか感謝してもしすぎることはないほど授かったものは大きい。

夜の部ではOBの先輩方が大勢来てくださった。二次会まで盛況であった。部が続いていくことのすばらしさを感じつつ、わたしたちも先輩方に報いるには、先輩方が与えてくださったことを後輩へと

贈ってゆくしかないのだと思う。
色々な道に進んでゆかれた卒業生の皆様。本当にお世話になりました。ありがとうございました。いつでも部室に遊びに来て下さい。
お元気で……。

春季人口宿

阿蘇の雄大な自然のもと、わたしたちは討論の合宿をした。
すばらしい景観を真横に見ながら、部について熱弁をふるう部員たち。班にわかれておこなわれた討論は、たどたどしくも自分の意見を考え、話してゆく一回生とそれを引き出してまた深い内容へと導いてやろうとする上級生の思い遣りとで進んでゆく。そんな中に、部の本来あるべき姿や、これからの部に必要なことは一体何なのか、問い掛けがあふれている。

春季合宿の夜はそれこそ二次討論ともいえる。消灯後、声をひそめて、話し足りなかったことや、言えなかったことなどが飛び交い、ますます睡眠不足に拍車がかかる。

しかし、話し合ったことは合宿だけで済ませてはいけない。その後の行動こそ、春季合宿の意味を確かなものとするのだ。



新入生歓迎会

一年 松本 まり子

結構ドキドキしていた。あまり話したことのない先輩方と一緒にレクリエーションをするなんて。しかも夜には恐怖の飲み会が待っている。なぜ恐怖かといえば、先輩の名を聞かれて答えられなかったら、「まあ飲め」ということになるかと聞かされていたからだ。一応先輩の名前は覚えていたが、顔と一致しなかったので昼間にみんな覚えなければならなかった。

私は一斑だった。同じ班の人は、脇田先輩、高良先輩、山本（浩）先輩、今西先輩、内田先輩、濱地くん、そして私の七人だった。今考えると、なかなかすごいメンハーだったと思う。

昼の部では、ムカデ競争や風船わり（班の一人の人の人にいくつかの風船をつけて、別の班のひとが追いかけて回して、制限時間内に風船いくつ割ったかを競うもの）ちなみに他の班は一回生が風船をつけていたが、うちの班だけは、ジャンケンで負けた高良先輩がでていた。逃げ回った後、筋肉痛になっていた。でも、うちが一番だった。や、空き缶立て（二人で手をつないで缶の所まで走り、そのまま倒れている空き缶のうちのひとつを立てて、その上にもう一つの缶をのせるというもの。なかなか難しかった。でもこれもうちが一番だったと思う。私は高良先輩と組んだ。ちょっとラッキー♥）等を午前中にやった。第一記念会堂だったので、日に焼けなくて良かった。

お弁当は、文系センター棟の前の芝生の上で食べた。私はおにぎりを作っていた。梅とおかかたったけど、なぜか四回生の男性方が梅のおにぎりを探していた。そして、これもなぜか梅のおにぎりを作ってきた人が少なかったの、作って良かったと思った。結構好評だった。みんなで食べたお弁当はとてもおいしかった。ごちそうさまでした。

午後からは、バスケットボールをした。男の人の中でバスケットは、あまりなかったの、とても怖かった。三回も顔にボールが当たったので、自分のニブさを痛感してしまった。たしかこのバスケットで活躍した青木くんが、MVPをとった。すごい。

でも、午前中のリードがきいて、最終的に我が一斑が優勝した。夜の飲み会するとき、私が賞状をもらった。その賞状はいまだに私の家にある。いい記念だ。

飲み会はうわさ道り、なかなかすごかった。女の子は意外にも、お酒に強い子が多かった。私は全然ダメだけど。男の子はもう、大変なことになっていた。思い出したくない、というか、ほろ酔いだったので、余り覚えていない。で、二次会はいつも通りカラオケ。

方には、大変お世話になりました。これからも数多くの飲み会で、ご迷惑おかけすることと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

来年は、後輩が入ってくる。新入生歓迎会はどんなふうになるのだろう。たくさん後輩ができるといいな。でも、そうなると飲み会のとき大変かも。まあ、いいか。楽しければ。

学内展

五月、一回生もようやく半紙の練習に慣れ、二回生以上は半切を二点ということで慌ただしい中、その作品展示会が開催された。

・二回生の表装も段々形をとりはじめ、展示会の受付などに至っては実に落ち着いて出来るようになっていく。

見学者は学術文化発表週間ということで学文関係者が多い。日頃何をしているのかよくわからない互いの部の活動を知ってもらい、よい機会である。また、他大学の連盟員の方々が熱心に観にきていただく。批評されるとき、こちらのほうは緊張する。

今回、OBの方々とソフトホール大会があり、展示会を続行したおかげで多くのOBの方々にも見学していただいた。いろいろな参考になるご意見があり、展示会の内容に反省と再考を促されながらも、それは幕を閉じた。

たしかに学内展だけに言えることではないが、毎年同じ展示方法で展示を行なっていて、果たして進歩となるのか。ある一定のレベルは確実に保っていくだけの力はあるか、それから先変わって一般に強くアピールすることができるのか。それは今後の課題であろう。

夏季合宿と人口宿

この合宿は、例年ならば宮地嶽神社でおこなわれるはずであったが、神社側のつこうもあり、英彦山青年の家という研修施設で行運びとなった。会議室を貸し切り状態にさせていただき、やや狭ながら、比較的涼しい環境のもとに七隈祭にむけての作品づくり部員一同が取り組んだ。

各班ともにそれぞれ個性あふれる班作りにはげみ、長時間の練に耐え抜いたことはいうまでもない。異なる状況ゆえに上級生が惑う面が多少なりともあったようだが（快適すぎて夏季合宿らしい、という意見も）合宿が終る際の片付けのスムースさと仕事丁寧さに、合宿の成果を見た。

夏季合宿とは、書くだけの合宿ではない。各学年ともに福人書部の真のすがたを学び取る、ある意味で最高の行事ではないだろうか。

また、毎日持っていた作品を嫌な顔ひとつせずしっかりと見て指導して下さった赤木先生なくては書技がここまで向上することはありえなかったであろう。（そのせつは大変お世話になりました……）

今後、どのような形になってもこの合宿の本当の意味が失われぬことを祈りつつ、筆を置くことにする。

七隈限祭

年 青木 孝弘

また真つ暗の中、最近では上出来たと言われた、「黄金のスフィックス」が市中パレードの出発点、「舞鶴公園」に向け出発した。そして、夜が明け、四回生の先輩方には秘密にしていた、仮装の為の衣装が公開され、笑い声の中（Y先輩は少々ご機嫌を損なわれた様だが）皆、無事にバスに乗車し一般乗客の目を気にしながら、舞鶴公園に到着し、人声で歌を歌いながら天神へと繰り出した。「須崎公園」に歌い歩き疲れて着き、お気に入りの衣装&かつらを外したくなかった。僕とN君とU君は岩田屋の前で募金活動中の女子高生に白い目で見られながらも、写真撮影をし、翌日からのバザーと展示に不安と期待をしていた。

そして、いよいよバザーと展示が始まった。先輩方から、回生主体たと言われ、目標金額を超えないと先輩方の打ち上げ代がタダにならないというプレッシャーで皆、とにかく、売り上げを伸ばそうと、心不乱に働いた。（そのお蔭で祭を楽しむということを忘れかけたか）

そして、一回生だけでなく大勢の先輩方の協力もあって、一番ハッピの も終り無事に七隈祭の全行程を終了した。その後の打ち上げでは僕は何をしゃべっているのかわからない状況となり、翌日

の後片付けは二日酔いで大変だったのは言うまでもない。振り返ってみると、準備や仕事はとも大変だったが、その忙しさの中にも笑いがあり、とても充実していたと思う。祭は愉しむものとしての考えを忘れずにいることが成功へと結びついたのである。



揮毫大会というものを聞いて初めはどんなものか全くといっていいほどわからなかった。でも、先輩方に話を聞いてみてわが福大書道部の最大行事であるということや、高校生を招いて作品を書いてもらうということを知った。また、参加人数の多さや、参加高校が県外からも多く来られることに驚き、自分は本当にやれるかなあ、と不安がよぎった。その不安をなくすために、入念なりハースアルが行われた。最初の方は少しとまどったが、本番が近くなるにしたがつて、次第に流れもスムーズになり、時間的にとても短縮し、これなら当日も、うまくやれる、という自信がついた。いよいよ当日、少し緊張しながらも、何かわくわくするものがあつた。女子高校生を見れるだろうか？

さて、自分の役職は、揮毫前、校内案内（正門）揮毫中、側方監修（ステージ側）、審査中、更衣室監視（三階）を与えられた。まず校内案内では、日曜日とあつて制服姿の高校生が多く、次から次へと、「西日本揮毫大会に参加される方ですか」と聞きまくった。しかし、同じ役職の島先輩、江上先輩から「あの高校生は、違うよ。荷物が少ないもん」と言われさすが先輩、何度も経験すると違うものだと思つた。正門から来られる方は多いと聞いていたが、予想以上に少なく暇な時間が多かった。校内案内も終わり、第一記念会堂に入ってみると、高校生一色という感じだ。開会式も、青木君の落ちつきに書き出した。揮毫中は、それはそれは、しずかな雰囲気、途中、腹がなりそうになったが、そんな小さな音でも聞こえるくらい静まりかえっていた。しかし、その中で自分は、重大なミスをおかした。近くに置いてあつた椅子に足をぶつけて音をたててしまったのだ。一瞬動揺したが、高校生の方は、あまり気にしていなかった。でほっとした。また近くの高校生の作品を見てまわつたが、今まで自分が見たことない作品や、工夫された作品が多く、いろいろ参考になったし自分ももっと練習しなければいけないという気持ちになった。

揮毫が終わると、更衣室の前に行き、帰られる高校生に「お疲れ様でした」と声をかけると、ほとんどすべての方が「お疲れ様でした」「ありがとうございます」と返事を返してきてくれて、とてもうれしく思つた。中には、からかわれるようなことを言われたが、そこは、大学生、気にしないで、すーと流した。審査中、上か

ら下の様子を見ていて、みなさんがあちこち動いたりしているのに自分は、ただ更衣室の前にいるだけで何もしていないし、これで本当にいいのだからということさえ思えるくらいまたまた暇だった。というところで、自分の役職は全体的に暇で仕事という仕事はやっていないように感じみなさんに申し訳ない気さへ感じた。この揮毫大会は、やはり一人一人が与えられた役職をこなし、部員全員に対する部員の気配りによって先程いった「ありがとうございます」という言葉や、高校生のあの満足した顔も生まれてくるのだと思つた。

最後に、今は十一月三〇日で、展示や授賞式の方がまだ行われてなく、それが終るまでは、本当の揮毫大会も終わりといえないので、また気をひきしめていきたいと思う。

書

去る十一月十三日、第 記念会堂で、第三十四回西日本高等学校校種大会を開催した。今年は初参加校が多く、宮崎から岡山まで実に二十五校二百三十二名の高校生が集まってくれ、西日本との名にふさわしい大会となったといえよう。

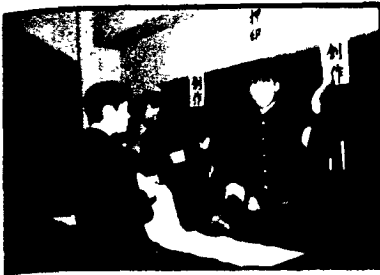
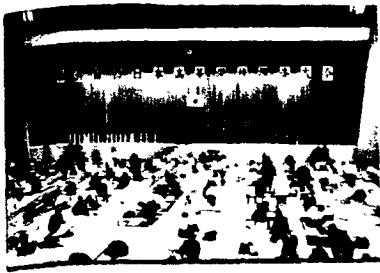
この大会に参加した高校生の皆さんが一生懸命書いた作品を、忙しい中一瞬に作品を見てくださった審査員の先生方。後援団体、長い時間をかけてそれを準備した部員たち。お世話して戴いたOBの先輩方。とても多くのひとびとの暖かな思いやりと、書道に対する熱意がこの大会を支えている。

内容的には、昨年にひきつづきコンピュータを導入し利便化をはかるなどの工夫を行った。

また、初めてケーブルヒョン21の好意で、30分間の番組で一日三回、一週間放送してもらった。映像を使った情宣活動をぜひ次代につないでいってほしいと思う。

なによりも、「自分からやろう」とする前向きな自主性と我が部の伝統の部分を発揮する最高の舞台として続いて来た大会であるが、常に地域に貢献できるゆとりをもたなければならぬと、わたしたちは、高校生たちのひたむきな姿から学んだのではないだろうか。

最後に、これからも発展してゆくであろう大会から部主催の大会という部員の誇りかいつまでも続いてゆくことを願う。



一年間を振り返って

第三十四代役員である我々は、「やる気」と「けじめ」をスローガンに部の運営並びに諸活動を積極的に行なった。

本年度は男子四名、女子一名が役員の任に就くことになった。小人数ゆえに、五十余名を支える困難も最後には克服し、部員と共に貴重な経験を限りなく得たものと確信する。

学生の気質の変化をはじめとする大きな時代の境の狭間で、「部して何ができるのか」「部とはどのような存在であるべきか」を常につきうけられつづけた一年間。笑ったり、悩んだりしながらも伝統を守って部員が活動してきたことこそが、何にも増してかえがたい財産となるだろう。

最後に、この一年を陰ながら見守り、応援してくださった皆様に御礼申し上げます。

福岡大学芸術文化部会書道部
（規約）

第一章 名称及び目的

第一条 本部は福岡大学芸術文化部会書道部と称し、本学学生による書道愛好者の団体である。

第二条 本部は部員相互の親睦融和をはかり、人間形成を目指すと共に書道文化の普及、書技の向上を目的とする。

第三条 本部は前条目的を達成するために次の事業を行なう。

- 一、書道に関する事業
- 一、書道に関する調査並びに機関誌などの刊行

- 一、関係団体との親睦ならびに連絡提携
- 一、各種展示会出品
- 一、その他前条目的達成のため必要と認めた事業

第二章 組織

第四条 本部は講師及び部長を各一置く。

第五条 本部は幹事、副幹事、会計、企画、庶務、渉外、その他必要とする役職を置き、本部を代表する。

第六条 本部は次の機関を置く。

- 一、役員会
- 一、部員総会
- 一、O B会、但しO B会規約は別に定める。

第三章 役員会

第七条 役員会とは、部の円滑なる運営を期するための機関である。

第八条

本会は原則として、第五条に基づく役員によって構成される。但し、第五条に基づく役員以外であっても幹事が認められた場合には、本会に出席することが出来るが議決権はないものとする。

第九条 本会は幹事によって招集され代表される。

第十条 本会は毎月一回開くことを原則とする。

第十一条 本会の議決は部員総会の決定を妨げるものではない。

第十二条 本会は本部の最高議決機関である。

第十三条 本会は本部の部員によりこれを構成する。

第十四条 本会は必要に応じこれを開き、幹事がこれを兼務する。

第十五条 本会の議長は原則として、幹事がこれを兼任する。

第十六条 本部会は部員の過半数をもって成立する。

第十七条 本部会の議決は出席者の過半数の賛成を必要とし、可否同数の場合、幹事がこれを決定する。但し、出席者の過半数の賛成で重要事項とし、その決定には出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

ない。

第五章 役員

第十八条 役員構成は第五条に同じ。

第十九条 第三条に基づき、外部関係諸団体へ役員を派遣することが出来る。

第二十条 幹事は本部を代表し、副幹事は幹事を補佐し、幹事に支障ある時はその職務を代行する。

第二十一条 本部の役員改選は選挙制にし、これを重要事項と認め部員の無記名投票による選挙を行なう。

但し、委任状は認めるが、委任の方法は年度によって異なっても良いものとする。

第二十二条 本部の役員の任期は四月一日より翌年三月三十一日までとする。但し、役員改選後、翌年三月三十一日までは代行期間とし、その責任は新旧役員の連帯責任とする。尚、欠員が生じた場合これを補充する。

第二十三条 役員改選は原則として十月に行なう。

第六章 役員の職務

第二十四条 役員の職務は次の通りである。

- 一、幹事は部務を処理し、部を統括する。又、部の代表責任者であり、その責任を芸術文化部会と部全体に負う。
- 一、副幹事は幹事を補佐し、幹事に支障ある時はその任務を代行する。

- 一、会計は部費徴収並びに部費予算に關する収支の記録決算書を作成。
- 一、企画は第一章第二条に定められた本部の目的にそつて諸活動を企画する。
- 一、庶務は本部の活動に必要な諸事務を行ない、資料の収集保管をなし、機関誌の発行を行なう。但し、機関誌の発行は年一回とする。
- 一、第五章第十九条に基づく役員は、本部關係諸団体との親睦融和を図り部の向上を目指す。

第七章 会計

- 第二十五条 本部の会計年度は四月一日より翌年三月三十一日までとする。
- 第二十六条 本部の部費及びその他の所定納入金については、前年度末に部会において決定しなければならない。
- 第二十七条 会計報告は会計が行なう。又、部員の要求に応じて会計簿を公開し、年一回決算報告を作成し、これを報告する。

第八章 部員の権利義務

- 第二十八条 本部の部員は次の権利を有する。
 - 一、本部のあらゆる活動に参加し、人間形成の場として利用すること。
 - 一、本部の部員総会に出席し、その議決に参加すること。
 - 一、本部における選挙権、被選挙権を有する。
 - 一、本部の備品及び図書を利用すること。

第二十九条 本部の部員は次の義務を負う。

- 一、部員は部員総会に出席すること。但し、やむなく欠席する者は事前に欠席届を幹事に提出しなければならない。
- 一、部員は部費その他の所定納入金を定期に納入すること。
- 一、本部の規約に従うこと。

第九章 入部、退部

- 第三十条 本部の入部は年度始め募集することを原則とし、学文会登録及び入部金納入をもって部員とする。本部の退部は書面をもって幹事に願ひ出て、役員会の承認を得、部員に通達する。但し、退部を希望する者は、その在籍期間までの所定の納入金を完納すること。

第十章 罰則

- 第三十二条 書道を研究する熱意なく本部の名譽を汚したる者、部活動を理由なくして一ヵ月以上怠つた者、又、部の秩序を乱す者は部より除名する。但し、欠席届出者についてはこの限りではない。

第十一章 規約改正

- 第三十三条 本部規約改正の発議は部員総会において部員の四分の一の同意により総会の議決を経て行なわれる。尚、改正においては、部員の三分の二以上の出席を必要としその出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

第十二章 附則

附一、本規約は、昭和三十五年より実施、昭和四十五年四月一日改正。

福岡大学書心会

（規約）

第一章 総則

第一条 本会は福岡大学書道部書心会と称する。

第二条 本会は事務局（本部）を福岡大学書道部に置く。

第三条 本会は支部を置くことができる。

第二章 目的及び事業

第四条 本会は会員相互の親睦を図り、書道文化の普及、向上に努めると共に福岡大学書道部の後援を行ない、もって書道に貢献する事を目的とする。

第五条 本会は前条目的達成の為次の事業を行なう。

- 一、書道の振興に関する事業
- 一、書道に関する研究物、機関誌等の刊行
- 一、関係諸団体との親睦及び連絡提携
- 一、各種展示会出品
- 一、その他前条目的達成の為必要と認めた事業

第三章 組織

第六条 本会正会員は福岡大学書道部員として登録をなし卒業をした者をもって構成する。但し強制するものではない。

第七条 本会に総会、評議委員会、および事務局を置く。

第四章 役員

第八条 本会は次の各号の役員を置く。

- 一、会長（一名）
- 一、副会長（若干名）
- 一、評議委員長（一名）
- 一、副評議委員長（三名）
- 一、評議委員（原則として各代一名とする）
- 一、事務局次長（一名）
- 一、事務局委員（若干名）
- 一、会計監査委員（一名）

第五章 役員の職務

- 第九条 本会の役員は次の職務を行なう。
 - 一、会長は本会を統括し、且つこれを代表する。
 - 一、副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。
 - 一、評議委員長は、評議委員会を統括し、かつこれを代表する。
 - 一、副評議委員長は、評議委員長を補佐し、評議委員長に事故ある時はその職務を代行する。
 - 一、評議委員は本会の運営、重要事項の審議および決議にあたる。
 - 一、事務局次長は、事務局を統括し、且つこれを代表する。
 - 一、事務局次長は、事務局次長を補佐し、

事務局長に事故ある時は、その職務を代行する。

- 一、事務局員は、本会の企画、立案にあたる。
- 一、会計監査委員は、本会の会計監査にあたる。

第十条 役員の任期は二年間とし、定例総会において選考するものとする。

第六章 総会

第十一条 総会は本会の最高決議機関である。

第十二条 書心会総会は会員をもって構成する。

第十三条 本会総会は次の各号の場合、書心会会長がこれを招集する。

- 一、定例総会（年一回）
- 一、会長が特に必要と認めた場合
- 一、評議委員会が必要と認めた場合
- 第十四条 本会総会は出席会員をもって成立する。
- 第十五条 本会決議は出席会員の過半数を必要とし、同数の場合は議長がこれを決定する。
- 第十六条 本会総会議長は書心会会長がこれにあたる。

第七章 評議委員会

第十七条 本会の審議および決議機関として本委員会を置く。

第十八条 評議委員会は評議委員、事務局次長、および事務局次長をもって。

構成する。

第十九条

評議委員会は次の各号の場合、評議委員長がこれを招集する。

- 一、会長が必要と認めた場合
- 一、評議委員長が必要と認めた場合

第二十条

評議委員会の成立、並びに議決は書心会総会に準ずる。

第二十一条

評議委員長は評議委員長がこれにあたる。

第八章 事務局、会計

第二十二条

本会の執行機関として、本事務局を置く。

第二十三条

事務局内に事務室を置き、書道部役員より、事務室長を選任する。

第二十四条

本会の会計年度は毎年一月一日より始まり、十二月三十一日に終わる。

第二十五条

本会会費は総会において決定する。

第二十六条

会計は監査を受け、総会においてその年度の会計報告を行なう。

第二十七条

会員は本会運営費用として毎年三月三十一日までに会費納入の義務を負う。

第九章 入会及び退会

第二十八条

入会については、第十七条に該当するもので且つ、本人の申し出によるものとする。

第二十九条

本会をやむをえぬ事情の為、退会する場合は書面をもってすみやかに申し出ること。

第三十条

本会を退会し、再入会の申し出があった場合、評議委員会の承認を得たものについて入会を認めることがある。

第三十一条

本会で本会の名譽を毀損し、また会員としての体面を汚し、もしくは不都合な行為があった場合、総会の決議により退会を命ず。

第三十二条

二年間会費を滞納したものに於いては退会を命ず。

第十章 規約改正

第三十三条

本会規約の改正は評議委員会の審議を経て総会出席者の三分の二以上の賛成を得なければならない

第十一章 附則

第三十四条

本規約は、昭和五十九年一月十六日から執行する。

編集後記

第三十五号荒鷺がやっとのことで発刊の運びとなりました。

今回は発刊三十五周年という、記念すべきものにしたと考えました。しかしながら、その趣旨に沿うことはなしえなかった感があります。大幅に発刊が遅れたことにつきまして、この場を借りておわび申し上げます。

このような荒鷺ではありますが、第三十四代の年間活動の集大成として、また、部員ひとりひとりが書道部という、一つのフィールドですごした証しとして目を通していただけましたら、こんなうれしいことはありません。

最後になりましたが、本誌発刊にあたりまして、ご協力頂きました関係者各位に対しまして、紙面を借りまして厚くお礼申し上げます。

第三十四代庶務 松元 祐二

「荒鷺」

第三十五号

福岡大学学術文化部会書道部機関誌
平成七年十一月 発刊

発刊責任者 山本 浩司

編集責任者 松元 祐二

発刊 福岡大学学術文化部会書道部
☎ 八一四一八〇

福岡市城南区七隈八一四九一
☎ (〇九二) 八七一〇四七二

印刷所 ユニプリント